NIPPON SPORT SCIENCE UNIVERSITY

BASEBALL CLUB

2022

NSSU

日本の野球界に果たす日体大の役割

日本体育大学野球部OB会
会長　伊東　与二

コロナ禍で疲弊した日本を元気づけた 2021 年の野球界の３大ニュースは、(1) 大谷翔平が二刀流でメジャー満票 MVP、(2) 東京五輪で侍ジャパンが金メダル獲得、(3) 日本シリーズでヤクルトが優勝の三つだと言われています。

まず、大谷選手は並外れた身体と才能を持ち、進む先々で素晴らしい指導者に出会い、少年の心を持ち続け、夢を追い求めながら不断の努力を続けました。

また、東京五輪や日本シリーズで大活躍したヤクルトの山田哲人選手は、ご存知の通り履正社の岡田龍正監督（S59 年卒) に、本塁打王の村上宗隆選手は九州学院の坂井宏安監督（S55 年卒）の指導を受け、球界を代表するスター選手に育ちました。さらに、プロ野球解説人気 No.1 の藤川球児氏（元阪神）は高知商高の上田修身監督（S60 年卒）に中学時代から指導を受けています。

このほかにも、日体大 OB は高校、大学、社会人、プロ野球界で活躍する幾多の選手の発掘・育成・指導に携わり、高い技術はもとより、人間的にも魅力あふれる選手を育て、子ども達が憧れる野球の普及振興に努めて頂いています。

野球は「人としての生き方」を教え、限りなく「学ぶ機会」を与えてくれます。野球を通して培った絆は、「生涯の友」という財産も与えてくれました。野球人口が激減している昨今、我々日体大 OB には、日本の子ども達や若者達に、これまで以上に「野球の魅力や素晴らしさ」を伝える責務があると思っています。

私自身、高岡商高の校長で定年を迎え、３年間の県体育協会勤務を経て、富山県立大に異動して５年になりますが、これまでと同様に野球から多くのことを学び、次世代に野球をつなぐ責務を果たすため、今後とも、連盟や協議会の役員、テレビの解説などを通して微力ながら野球界を支えていきたいと思っています。

さて、私事ですが、昨年のお年玉付き年賀はがきで見事に「特等」に当選しました。確率が１千万枚に１枚の懸賞商品は「五輪観戦ペアチケット（旅費・宿泊費込み）」です。ところが、無観客試合となり、会場での観戦は不可能でしたが、テレビを通して感動と勇気は頂きました。大会後に五輪グッズが送られて来ましたが、新型コロナ感染拡大に対して、人一倍残念に思った東京五輪でした。

また、年末には都市対抗野球に出場する地元の社会人チームを応援するため、２年ぶりに上京して東京ドームに行きました。やはり「晴れ舞台」での一投一打は気迫が溢れ、熱い感動の連続です。高校では甲子園、大学では神宮、社会人では東京ドームを目指して選手たちが努力を積み重ねるのも、この日のためです。

母校野球部の皆さんには、大谷選手のように少年の夢を追い求め、大好きな野球を思い切り楽しんで下さい。そして、春や秋のリーグ戦で実力を発揮し、大学選手権大会や神宮大会の出場と「大学日本一」の奪還を目指し、「勝負の世界の醍醐味」を思う存分味わって下さい。

一日も早くコロナが収束し、球場に足を運んで、OB 一丸となって選手たちを激励し、声高らかに応援歌を謳いたいと願っています。OB 会の充実と野球部の強化・飛躍に向けて、今後とも、温かいご指導とご支援をお願い申し上げます。

―蝶のはばたきで竜巻を起こせるのか―
打の「つながり」に思いをこめて

日本体育大学 野球部
部長　波多腰　克晃

2020 東京オリンピック・パラリンピック大会では、野球の試合に部員がボランティアとして携わる大変よい経験となりました。また、本学グラウンドにおいて各国のオリンピック代表チームの練習を目にする機会を得たことは、みて学ぶ（みてまねる）、貴重な機会となったはずです。

さて、４月に開幕した春季リーグ戦を振り返ってみますと、新型コロナ感染拡大に振り回されたことは否めません。十分な準備ができないままリーグ戦に突入したことは、結果を出すことよりも、選手の怪我がもっとも懸念されました。そうした中でも２選手がベストナイン・首位打者に選出されました。野球部部長として拝命されてから知る限り、徐々に打力が結果に表れてきていると感じてもいます。ただ、打線（つながり）が未だ課題となっています。

秋季リーグ戦では終盤に逆転される試合がいくつかありました。「あのときに一本ヒットが出ていたら」は後の祭りですが、今季は打線に期待したいところです。ところで、打の「つながり」は打の技術獲得のみに拠るものでしょうか。ベンチの励まし、応援席の部員の声援、関係者の皆様との「つながり」もまた、日体大の打線と考えています。我々の一つひとつの小さな行動やちょっとした発話（会話）が日体大の打線へ結びつく、わずかな力が大きな力へと結びつく（バタフライ理論：butterfly effect）。理論の正否を問うことは他に譲るとして、「チーム一丸」だけではなく、全国でご活躍の日体大野球部を応援してくださる皆様とともに、一打に思いをこめて日体大の打線が爆発することを願うばかりです。

古城監督の尽力もあり、YouTube 配信も年を追うごとに精度をあげ、学生が中心となって魅力ある動画配信が実現しております。学生のポテンシャル（潜在能力）に驚かされます。

最後になりましたが、皆様の熱いご声援を心よりお願い申し上げるとともに、皆様にとって、より良き年になるよう心より祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

NITTAIDAI BASEBALL CLUB

CONTENTS

■ご挨拶…02
・OB会長挨拶
・硬式野球部 部長挨拶
■監督インタビュー…05
■注目選手…07
・矢澤 宏太…07
・打田 啓将…09
・中妻翔、小儀純也…11
■部員紹介…13
・リーグ戦メンバー、4年生…13
・3年生、2年生…15
・令和3年度卒業生…17
■首都大学リーグ 春季リーグ戦…18
・第1節 VS 東海大学…19
・第2節 VS 帝京大学…21
・第3節 VS 筑波大学…23
・第4節 VS 桜美林大学…25
・第5節 VS 武蔵大学…27
・春季リーグ戦 結果…29
■首都大学リーグ 秋季リーグ戦…31
・第1節 VS 帝京大学…31
・第2節 VS 筑波大学…33
・第3節 VS 桜美林大学…35
・第4節 VS 武蔵大学…37
・第5節 VS 東海大学…39
・秋季リーグ戦 結果…41
■日本体育大学 硬式野球部組織図…43
■健志台野球場 施設紹介…47
■健志台合宿寮紹介…51
■日体大データ等…53
・SNS・HP紹介
・活躍するOB
・令和3年度卒業生 進路
・令和4年度 新入生

「BE TOUGH」

日本体育大学 硬式野球部
監督　古城　隆利（1969 年生まれ）

日本体育大学 スポーツマネジメント学部　助教
日田高校―日本体育大学―いすゞ自動車株式会社―
日本体育大学大学院

昨年春のリーグ戦では大会直前の3月に、寮でコロナのクラスターを出してしまいました。徹底した予防対策を行ってきたのですが、ご迷惑をお掛けした、関係者の皆さまや保護者の皆さまにこの場をお借りしお詫び申し上げたいと思います。このような状況であったので、いままでやってきたことが直前で振り出しになってしまいました。リーグ戦にむけた取り組みで大切にしているオープン戦なども思うように行うことができなかったことはとても大きかったです。また、練習不足による故障者も多く出てしまい、ベストメンバーがそろわないリーグ戦となってしまいました。あと1敗すれば入れ替えというような厳しい戦いとなってしまいました。

しかし、こんな環境であったにもかかわらず、下級生のころからリーグ戦に出場し、キャプテンとしてチームを引っ張ってくれた猪原隆雅（R3卒業 大冠）や小儀純也（4年霞ヶ浦）の二人が同率の首位打者というタイトルを獲れたことは高く評価したいと思っています。ケガで出場できない選手の関係で、コンバートしながらの戦いという思うような試合運びができないリーグ戦でしたが、それでも何とかしようとい強い気持ちは感じることができましたね。

秋は野手がとても頑張ってくれました。まわりから日体大はこれまでも「投手陣がいい」といわれてきていました。ここ数年プロにも投手を送っていますからね。だから野手は悔しかったと思うんです。そういった悔しさをバネに迎えた秋のシーズンではチーム打率は1位。2期連続で首位打者を日体大が獲ったというのは評価できることころであり、順位は3位ですが、ある程度結果は残せたのではないかと考えています。また、春はエラーで崩れた試合が多かったのですが、夏にその反省を踏まえたいろいろな取り組みをしました。その成果が秋のリーグ戦エラー0という結果に結びついたんだと思います。

数字としての結果は、いろいろと出ているのですが、何故か勝ちにつなぐことができませんでした。技術面でいい選手はたくさんいます。しかし、ここという勝負の場面で今シーズンは自ら崩れていくことが多かったです。また、ミスを補うだけの力が持てなかったのも勝てなかったことの要因だと思っています。いい攻撃ができて、ランナーをためても点数が取れない。チャンスは作れるけれども、あと一本がでない。このように決定力がないのことが課題であると考えています。

次のシーズンではこういった逆境の中で結果を残せすため、

「BE　TOUGH」

をテーマに新チームを作っています。バッターは勝負を決める場面で一打を打てるように。投手はピンチになった時に主導的にパフォーマンスが出せるように。ここ！というところでしっかりと結果が出せるように秋の強化練習は、一切の妥協を許さない練習をしてきました。自分の殻を突き破る、そして突き抜けろという気持ちで選手たちは練習をしてきました。来シーズンはここという所に強い選手たちの姿をお見せできるのではないかと思っています。

来シーズンも二刀流で頑張って暮れている矢澤宏太（4年藤嶺藤沢）がキーマンとなると思います。しかし、チームとして二刀流で出場している矢澤にかかる負担を考えるようなチームではいけないと考えてます。例えば矢澤が投げるからこういう負担を取り除こうとかなどリーグ戦を戦う中でこういった考え方ではいけないと思っています。チーム力が上がってきたら、自然と矢澤に負担がかからない戦い方ができると思っています。昨シーズン結果を出した、小儀純也や中妻翔（3年常総学院）はもちろん、チャンスメークとして松浦佑星（3年富島）など、それ以外にも中軸を打てる選手が上がってくれば本当に強いチームになると考えているます。また、投手としてはセットアッパーとして活躍した恩田慧吾（4年前橋育英）や川畑大地（4年乙訓）、今シーズン期待以上の活躍をした勝本樹（4年明石商業）にも期待をしています。上級生に大いに期待しています、若い力がどんどん出てくることも求めています。しかし、即戦力という考え方ではなくしっかりと力を蓄えてからといった本当に強い選手を下級生は慌てず目指して貰いたいと思っています。

チームの取り組みとして、大学から応援されるチーム、地域に愛されるチームを目指しています。今年の途中から月に1回、地域清掃もスタートしました。また、子どもたちに野球を教えたりするなどといった活動も行っており、こういったところからいいチームになりたいと思っています。また、積極的に情報発信もしています。球場に来れない人たちへ、我々の思いを届けれらえるようにSNSを駆使して日々の取り組みなどを紹介しています。多くの方にご覧いただきたいと考えています。

これまで投手、野手はメニューが違うので交わる事が少なかったのですが、今はお互いの練習を行いながら、きつい練習をしてしている時は双方に声を掛け合ったりして練習をするようにしています。また、2・3軍との関係性もこれまでは1軍は別であるような風潮もありましたが、今年キャプテンになった打田啓将（4年宇部鴻城）は2軍生活が長かったこともあり、全体としていい雰囲気が出来ています。こういったことで双方に声を掛け合ったりするなどし、今はコミュニケーションが取れ、一体感が生まれていることを感じています。感染症対策のため寮生と下宿生を止む無く別々にせざるおえない時間があり、色々なところに壁があるようになってしまっていましたが、こういったところを打田を中心に練習メニューを考えてたり、チームビルディングの観点からいろんなレクリエーションも行うようにし、学生が主体的に行動できるようにしています。今シーズンは一味違った日体大野球部をお見せできると思いますし、「日本一」を目指せるチームになって来ていると手ごたえを感じています。

NSSU PLAYER

矢澤 宏太

YAZAWA KOTA

YAZAWA KOTA

体育学部 4年 藤嶺学園藤沢高校出身
2000年08月02日生まれ。幼稚園年長から町田リトルに所属し、町田シニア、藤嶺学園藤沢高校を経て日体大へ。2020年秋に外野手として、2021年秋に投手としてベストナインを獲得。2021アジア大学選手権日本代表候補メンバーにも選出。

獲れるタイトルはすべて獲る！
二刀流は当たり前のスタイル

「一人ひとりにあった指導をしてくれる」日体大に入部したとき一番それを感じました。選手同士はもちろん、コーチなど指導者とも会話が多く、コミュニケーションがしっかりと取れるチームだと思いました。また、学生野球という練習時間が限られた中で、空いている時間に「自分の練習」をさせてくれます。自主性を重んじているからだと思いますが、この練習方法が成り立つのは私を信頼してくれているからだと思っています。ここに日体大の良さを感じています。

ピッチャーとしても野手としても今は順調に成長できてきていると感じています。入学当初は体重が60キロくらいだったのに、3年間で10キロ以上増やすことに成功しました。もちろん筋肉です。筋力などは入学当初よりかなりアップしていて、特に体幹の強さなどは自信があります。身体については大きく進化したと思っています。

日体大を選んだ理由は、高校の時に教育実習生だった先輩から「日体大の投手コーチの指導がすごい」と聞いていたからです。その辻コーチはここ数年、連続でドラフト上位で指名される選手を育成しています。投手として頑張るなら日体大がいいんじゃないかと薦めてもらいました。

また、高校の時いろいろな大学からお誘いを頂いた際、「ピッチャーで頑張ろうか！」とか「野手でやろう！」という話でした。私自身は、「大学の方針に従います」とお伝えしていたので、古城監督の「どっちもやろう！」という声がとても魅力的に感じたのを覚えています。子どもの頃から、ピッチャーとバッターの両方行うことが当たり前で、これが自分のスタイルでもあったので、それが評価された感じがしてとてもうれしかったです。

投手と野手の両方をやると決めた以上は、どちらかに保険をというかそういった考えを絶対持たないように決めています。ピッチングがだめでもバッティングではよかった！といったような事です。これが一番だめな考え方だと思っています。昨年のシーズンは3年目にしてやっと投手として成長できましたが、それまでは全然ダメで、実は昨年春がだめだったら野手に絞るという状況でした。しかし、小さいころからこのスタイルでやってきて、この二つにこだわり、絶対にやりたいんだという強い思いで冬のトレーニングを取り組んだことが春の結果に結びついたのだと思っています。

本格的に投手として出場することになったことで、身体への負担がとても大きくなり、バッティングに影響がでてしまいました。その反省を克服するため、春から秋にかけて練習の仕方から体力面を改善しました。ピッチングを行う時間、バッティングができる時間など、できるかぎり両方こなせるよう前日発表される練習メニューを見ながら自分の練習を組み立てていきます。こういった事が、結果に結びついたのだと思っています。

今年の日体大野球部はとても熱いチームです。このチームでまだ獲得できていない、首位打者、最優秀投手、MVPなどすべてのタイトルを獲得し、チームの目標である、「日本一」を目指します。そして、「ドラフト1位でプロ野球に行く」という入部当初からの目標を達成したいと考えています。

UCHIDA HIRONOBU

打田啓将

二軍から這い上がった
みんなが認めたキャプテン

教員志望であったのと、父が日体大野球部ＯＢであった影響もあり日体大の門をたたきました。技術が高くないので、「泥臭く一球一球に全力で取り組む」ことを大切にしています。

一昨年までは、二軍にいて、なかなか上に上がれず、苦しい日々でした。しかし、野球に対する情熱を絶やすことなく、毎日コツコツ努力することで少しづつ結果を出すことができ、昨年の秋のリーグ戦にはスタメンで試合に出ることが多くなりました。こういった野球に対する取り組みが評価され、まさかまわりの推薦で自分がキャプテンを務める事になるとは夢にも思っていませんでした。今ではやってきたことが間違いではなかったと自信にもなっています。

個人的には初めてのリーグ戦を経験し体力不足を痛感しました。長いリーグ戦を戦い抜くには最後まで最高のパフォーマンスを出せるために、体力づくりに重点をおいていきたいと思っています。また、大学２年生からキャッチャーをやっています。技術はもちろんですが、周りとしっかりとコミュニケーションがとれるキャッチャーになりたいと思っています。

副キャプテンに矢澤と松浦がなりました。この二人に技術面でチームを引っ張っていってもらい、私は泥臭く試合に対する姿勢でチームの勝利に貢献したいと思っています。。また、部員の多いクラブです。２５０人をまとめるために、三軍から一軍まで広く皆の意見を聞きたいと思っています。二軍生活が長かった私ならではの経験をフルに活かして、巨大でかつ一体感のあるチームを作りたいと思っています。

UCHIDA HIRONOBU

スポーツマネジメント学部 ４年 / 山口県 宇部鴻城高校出身
2000 年 07 月 27 日生まれ。小学校２年生の時に入部した小串ソフトボールスポーツ少年団から野球人生がスタート。好きな言葉はガンジーの言葉で「明日死ぬかのように生きよ。永遠に生きるかのように学べ」
身長 170cm　体重 75kg　ポジション：捕手投打：右・左

二人の首位打者

SPRING

小儀純也

KOGI JYUNYA

KOGI JYUNYA

体育学部 4年 / 茨城県 霞ヶ浦高校出身
2001年02月22日生まれ。野球は小学校2年生から加良部少年野球クラブ、佐倉シニアから日体大OBの高橋祐二監督が務める霞ヶ浦高校へ。2021年春首位打者を獲得。
好きな言葉は「今ここで限界を超えろ。」
170cm、78kg、内野手、右投右打

常に声を出して、元気のあるプレーを見せることを大切にしています。バッティングには自信があり、チャンスメイクが得意。勝敗のきっかけになるところには、いつも自分がいるようなそんな選手になりたいと思っています。

春のリーグ戦で首位打者という結果が出せたのは、その前年の冬に自分のを見つめなおす時間を持てたからです。そこで180度自分のバッティングが変わりました。考える力が身についたんだと思います。

昨シーズンの最後のほうでは、バッティングばかりに気を使いすぎて、体づくりが疎かになってしまいました。そのため、思うような結果が出せず悔しい思いをしました。しかし、自分がやらなくてはいけないことは分かっています。下半身の強化に努め、再度の首位打者を獲りたいと思っています。

1年生の時から試合に出て、最後のシーズンになります。今までの経験を活かし、練習の時から周りを引っ張っぱり、本当の目的である「日本一」を目指したいと思っています。

AUTUMN

中妻翔

NAKAZUMA SHO

NAKAZUMA SHO

体育学部 3年 / 茨城県 常総学院高校出身
2001年10月23日。まきば少年野球クラブに幼稚園年中から入部。取手ファイトクラブから名門常総学院高校に入学。「現状維持は退化」高校の時にかわいがってくれていた先輩の言葉で自分も大切にしている。2021年秋首位打者を獲得。171cm、75kg、外野手、左投左打

「レベルの高いところで野球がしたい」と考えて、日体大を希望しました。入部したとき、選手個々の能力の高さにとても驚いたの覚えています。

私の持ち味はスピードです。打撃も走塁も守備もすべて足をからめてプレーをしており、この部分は自信を持っています。また、チャンスを作るというのが私の仕事だと思っていて、昨シーズンは、まずますできたのではないかと思ってます。しかし、長打を出せていないところに課題があると思っています。他の選手より劣っている「スイングの強さ」をこの冬で鍛え上げ、極限までウエイトに取り組み、数を多くバットを振って来シーズンも結果を残したいと思っています。

また、大学の授業でトレーニングに関することや体の仕組みをしる授業なども学んでいます。今の私にプラスになることばかりで、日体大に入ってよかったと思っています。

目標は「日本一！」そして、また首位打者のタイトルを獲ることです。そのために何が必要か模索しています。

4 Years

合計 64名
【投手　8名】【捕手 5名】
【内野手 17名】【外野手 18名】
【マネージャー 3名】【学生コーチ 13名】

No	ポジション	氏名	学部	身長	体重	投打	出身校
1	投手	大木　喬也	体育	174	70	左・左	春日部共栄高
2	投手	岡田　龍生	体育	181	86	左・左	履正社高
3	投手	恩田　慧吾	体育	172	65	右・右	前橋育英高
4	投手	勝本　樹	体育	191	91	右・右	明石商業高
5	投手	川畑　大地	体育	174	65	右・右	乙訓高
6	投手	箱山　慶人	体育	184	87	右・右	日体大柏高
7	投手	平田　龍輝	体育	185	84	右・右	智辯学園和歌山高
8	投手	矢澤　宏太	体育	173	65	左・左	藤嶺学園藤沢高
9	捕手	石川　翔夢	体育	169	80	右・左	利府高
10	捕手	打田　啓将	スポーツマネジメント	170	75	右・左	宇部鴻城高
11	捕手	佐藤　大和	体育	174	78	右・右	いなべ総合学園高
12	捕手	宗平　幸晴	体育	169	69	右・左	岡崎北高
13	捕手	渡邊　真太	体育	180	82	右・右	関西高
14	内野手	青木　大晟	体育	170	70	右・左	日体大荏原高
15	内野手	秋津　拓郎	スポーツマネジメント	168	65	右・右	萩高
16	内野手	有住　昂大	スポーツマネジメント	176	77	左・左	明秀学園日立高
17	内野手	井阪　太一	スポーツマネジメント	178	85	右・左	大阪桐蔭高
18	内野手	稲本　侑星	体育	173	78	右・左	福岡大大濠高
19	内野手	植木　智哉	体育	180	80	右・左	桐生高
20	内野手	大谷　達也	体育	169	63	右・右	日体大柏高
21	内野手	後石原　功太郎	体育	178	73	右・左	御殿場南高
22	内野手	小儀　純也	体育	168	72	右・右	霞ヶ浦高
23	内野手	小林　拓真	体育	179	74	右・右	樹徳高
24	内野手	高柳　慧	体育	182	84	右・右	市立金沢高
25	内野手	竹田　有男	体育	180	88	右・右	松浦学園城北高
26	内野手	友田　和志	体育	173	60	右・右	下松高
27	内野手	中村　航晟	体育	178	89	右・左	筑陽学園高
28	内野手	中村　祐貴	体育	166	70	右・右	浜松日体高
29	内野手	播田　大和	スポーツマネジメ	168	73	右・右	愛媛県立小松高
30	内野手	三木　彰智	体育	174	78	右・右	履正社高
31	外野手	阿部　海吏	体育	163	54	左・左	湯本高
32	外野手	榎本　直樹	スポーツマネジメ	171	68	右・右	佼成学園高

No	ポジション	氏名	学部	身長	体重	投打	出身校
33	外野手	大谷　尚輝	体育	167	65	右・左	藍山高
34	外野手	大塚　晃平	スポーツマネジメント	181	78	右・右	日本大学第三高
35	外野手	加藤　琢斗	体育	170	69	右・左	愛知県立津島高
36	外野手	國井　雅貴	体育	170	74	左・左	都立城東高
37	外野手	小菅　広大	体育	175	78	右・右	暁星国際高
38	外野手	小松　俊章	体育	180	80	右・左	日大藤沢高
39	外野手	平良　豪雅	保健医療	174	80	右・右	興南高
40	外野手	千葉　大介	スポーツ文化	178	71	左・左	盛岡大附高
41	外野手	富松　孝介	児童スポーツ教育	179	85	右・左	大分上野丘高
42	外野手	藤川　寿真	体育	182	83	右・右	常総学院高
43	外野手	松本　佳高	スポーツマネジメント	179	77	右・右	初芝立命館高
44	外野手	宮川　寛志	スポーツマネジメント	177	70	右・左	奈良大附高
45	外野手	宮崎　礼生	体育	166	70	右・右	伊豆中央高
46	外野手	安井　太規	スポーツマネジメント	174	85	右・右	愛工大名電高
47	外野手	山崎　俊介	体育	179	92	右・右	九州学院高
48	外野手	山本　修平	体育	175	77	右・左	川越東高
49	マネージャー	北内　真太	スポーツマネジメント				上尾高
50	マネージャー	青木　来夢	体育				麻布大附高
51	マネージャー	倉科　奈桜	体育				長野県立飯山高
52	学生コーチ	青山　光太郎	体育				八王子高
53	学生コーチ	糸井　洸平	スポーツマネジメント				東日本国際大昌平高
54	学生コーチ	川越　匠人	スポーツマネジメント				高鍋高
55	学生コーチ	佐々木　大夢	体育				金足農業高
56	学生コーチ	佐藤　寛誌	体育				玉野光南高
57	学生コーチ	佐山　祐輔	スポーツマネジメント				宇都宮南高
58	学生コーチ	須藤　惇	体育				長岡高
59	学生コーチ	西岡　秀太	体育				星稜高
60	学生コーチ	野口　厚太	児童スポーツ教育				東明館高
61	学生コーチ	橋本　碩祐	スポーツマネジメント				桜宮高
62	学生コーチ	方尺　謙伸	体育				長崎海星高
63	学生コーチ	山田　滉史	体育				北海道科学大学高
64	学生コーチ	吉川　幸輝	体育				高知西高

PLAYERS LIST 2022

部長
波多腰克晃 HATAKOSHI KATSUAKI
長野 / 松商学園高－日体大－日体大大学院

50 監督
古城 隆利 KOJO TAKATOSHI
大分 / 日田高－日体大－いすゞ自動車－日体大大学院

55 助監督
黒木　豪 KUROKI GO
神奈川 / 横浜高－日体大

51 コーチ
辻　孟彦 TUJI TAKEHIKO
京都 / 京都外大西高－日体大－中日－日体大大学院

52 コーチ
大引 啓次 OOBIKI KEIJI
大阪 / 浪速高－法政大－オリックス－北海道日本ハム－東京ヤクルト－日体大大学院

54 コーチ
竹田 幸成 TAKEDA YUKINARI
徳島 / 小松島高－日体大

マネージャー
北内 真太 KOJO TAKATOSHI
① スポマネ ② 4年
⑤ 埼玉 / 上尾高

10 捕手
打田 啓将 UCHIDA HIROMASA
① 体育・4年 ② 170cm
③ 79kg ④ 右・左 ⑤ 山口県 / 宇部鴻城高

1 投手
矢澤 宏太 YAZAWA KOTA
① 体育・4年 ② 173cm
③ 72kg ④ 左・左
⑤ 神奈川 / 藤嶺藤沢高

12 投手
岡田 龍生 OKADA RYUSEI
① 体育・4年 ② 181cm
③ 90kg ④ 左・左
⑤ 大阪 / 履正社高

13 投手
大木 喬也 OHKI TAKAYA
① 体育・4年 ② 175cm
③ 76kg ④ 左・左
⑤ 埼玉 / 春日部共栄高

14 投手
川畑 大地 KAWABATA DAICHI
① 体育・4年 ② 174cm
③ 70kg ④ 右・右
⑤ 京都 / 乙訓高

16 投手
平田 龍輝 HIRATA RYUKI
① 体育・4年 ② 185cm
③ 90kg ④ 右・右
⑤ 和歌山 / 智弁和歌山高

17 投手
恩田 慧吾 ONDA KEIGO
① 体育・4年 ② 172cm
③ 68kg ④ 右・右
⑤ 群馬 / 前橋育英高

18 投手
勝本 樹 KATSUMOTO ITSUKI
① 体育・4年 ② 191cm
③ 96kg ④ 右・右
⑤ 兵庫県 / 明石商業高

19 投手
八田 歩 HATTA AYUMU
① 体育・3年 ② 179.5cm
③ 81kg ④ 左・左
⑤ 神奈川 / 大和高

22 捕手
佐藤 大和 SATO YAMATO
① 体育・3年 ② 173cm
③ 85kg ④ 右・右
⑤ 三重 / いなべ総合高

20 捕手
櫻井 仁生 SAKURAI YOSHIKI
① スポマネ・3年 ② 174cm
③ 80kg ④ 右・右
⑤ 愛知 / 愛産大三河高

27 捕手
高橋 建心 TAKAHASHI KENSHIN
① 体育・3年 ② 182cm
③ 82kg ④ 右・右
⑤ 神奈川 / 桐光学園高

26 捕手
山下 航汰 YAMASHITA KOUTA
① 体育・2年 ② 182cm
③ 75kg ④ 右・右
⑤ 京都 / 京都外大西高

3 内野手
中村 航晟 NAKAMURA KOUSEI
① 体育・4年 ② 178cm
③ 82kg ④ 右・左
⑤ 福岡 / 筑陽学園高

4 内野手
三木 彰智 MIKI AKITOMO
① 体育・4年 ② 175cm
③ 81kg ④ 右・右
⑤ 大阪 / 履正社高

5 内野手
稲本 侑星 INAMOTO YUSEI
① 体育・4年 ② 173cm
③ 87kg ④ 右・左
⑤ 福岡 / 福岡大大濠高

7 内野手
小儀 純也 KOGI JUNYA
① 体育・4年 ② 168cm
③ 76kg ④ 右・右
⑤ 茨城 / 霞ヶ浦高

25 内野手
小松 俊章 KOMATSU TOSHIAKI
① 体育・4年 ② 183cm
③ 86kg ④ 右・左
⑤ 神奈川 / 日大藤沢高

31 内野手
竹田 有男 TAKEDA YUTA
① 体育・4年 ② 180cm
③ 85kg ④ 右・右
⑤ 熊本 / 松浦学園城北高

6 内野手
松浦 佑星 MATSUURA YUSEI
① 体育・3年 ② 173cm
③ 76kg ④ 右・左
⑤ 宮崎 / 富島高

24 内野手
中島 優仁 NAKAJIMA YUTO
① 体育・3年 ② 177cm
③ 82kg ④ 右・両
⑤ 佐賀 / 佐賀商業高

33 内野手
重宮 涼 SHIGEMIYA RYO
① 体育・3年 ② 180cm
③ 90kg ④ 右・右
⑤ 兵庫 / 明石商業高

37 内野手
飯田 徹 IIDA TETSU
① 体育・2年 ② 174cm
③ 77kg ④ 右・右
⑤ 茨城 / 常総学院高

9 外野手
大塚 晃平 OTSUKA KOUHEI
① スポマネ・4年
② 174cm ③ 84kg ④ 右・右
⑤ 東京 / 日大三高

28 外野手
松本 佳高 MATSUMOTO KEISUKE
① スポマネ・4年
② 178cm ③ 82kg ④ 右・右
⑤ 大阪 / 初芝立命館高

29 外野手
宮川 寛志 MIYAGAWA KANSHI
① スポマネ・4年
② 178cm ③ 84kg ④ 右・左
⑤ 奈良 / 奈良大附属高

2 外野手
本間 巧真 HONMA TAKUMA
① スポマネ・3年
② 171cm ③ 79kg ④ 左・左
⑤ 神奈川 / 東海大相模高

8 外野手
中妻 翔 NAKAZUMA SYO
① 体育・3年 ② 171cm
③ 75kg ④ 左・左
⑤ 茨城 / 常総学院高

23 外野手
南 大輔 MINAMI DAISUKE
① 体育・2年 ② 176cm
③ 75kg ④ 右・右
⑤ 埼玉 / 花咲徳栄高

36 外野手
古滝 友哉 KOTAKI TOMOYA
① 体育・2年 ② 173cm
③ 70kg ④ 右・左
⑤ 群馬 / 健大高崎高

① 所属学部・学年　② 身長　③ 体重　④投・打　⑤出身地 / 出身校

2 Years

合計６９名
【投手　23名】【捕手 10名】
【内野手 17名】【外野手 16名】
【マネージャー 1名】【学生コーチ 2名】

No	ポジション	氏名	学部	身長	体重	投打	出身校
1	投手	飯島 大斗	スポーツマネジメント	170	69	左・左	中京大中京高
2	投手	伊東 邑航	体育	182	86	右・右	いなべ総合学園高
3	投手	國生 一志	スポーツマネジメント	174	72	右・左	鶴嶺高
4	投手	清水 惇	体育	172	70	右・右	安中総合学園高
5	投手	末永 昌吾	保健医療	170	72	左・左	日体大荏原高
6	投手	鈴木 誠人	体育	177	72	右・左	仙台育英学園高
7	投手	相馬 綾太	体育	177	78	右・右	志学館高
8	投手	高橋 恒介	体育	178	86	右・右	立花学園高
9	投手	竹島 俊並	体育	170	66	右・右	藤嶺学園藤沢高
10	投手	疊指 善宣	体育	174	74	右・左	青森高
11	投手	寺西 成騎	体育	186	84	右・右	星稜高
12	投手	長岡 和輝	体育	167	62	左・左	利府高
13	投手	中島 央稀	スポーツマネジメント	179	74	右・右	早稲田摂陵高
14	投手	中村 勝太	体育	178	89	右・右	長崎南山高
15	投手	箱山 優	体育	183	74	右・右	日体大柏高
16	投手	橋本 拳法	体育	183	82	右・右	健大高崎高
17	投手	原田 航介	体育	180	67	右・右	札幌国際情報高
18	投手	藤倉 颯人	体育	189	85	右・左	城南高
19	投手	増田 達紀	スポーツマネジメント	178	68	右・右	至学館高
20	投手	宮下 大地	体育	180	68	右・右	日体大荏原高
21	投手	弓場 将史	体育	170	75	右・右	浜松日体高
22	投手	山本 奏生	スポーツマネジメント	177	77	右・左	静岡西高
23	投手	横山 太一	体育	180	74	右・右	千葉日本大学第一高
24	捕手	秋山 達紀	体育	168	68	右・左	呉高
25	捕手	宇井 治都	体育	183	83	右・右	智辯学園和歌山高
26	捕手	岡本 卓汰	体育	165	75	右・左	大府高
27	捕手	梶 斗海輝	スポーツマネジメント	175	75	右・右	麗澤瑞浪高
28	捕手	菊池 信平	体育	168	70	右・右	秋田高
29	捕手	田上 拓磨	体育	182	81	右・右	智弁学園高
30	捕手	名村 康太郎	体育	170	62	右・左	明石商業高
31	捕手	羽田 啓亮	スポーツマネジメント	172	85	右・右	大宮東高
32	捕手	三輪 隼久	保健医療	173	81	右・右	江戸川高
33	捕手	山下 航汰	体育	180	70	右・右	京都外大西高
34	内野手	穴山 慶太	スポーツマネジメント	172	76	右・右	桜宮高
35	内野手	飯田 徹	体育	175	76	右・右	常総学院高
36	内野手	井上 隼斗	体育	168	62	右・右	明石商業高
37	内野手	柿田 孝樹	保健医療	178	74	右・左	富岡高
38	内野手	川原 颯起	スポーツマネジメント	171	66	右・左	明豊高
39	内野手	黒澤 孟朗	スポーツマネジメント	168	72	右・右	国士舘高
40	内野手	小関 慎之助	体育	168	68	右・右	札幌大谷高
41	内野手	木幡 有喜	体育	184	89	右・右	八王子高
42	内野手	小吹 悠人	体育	180	81	右・右	山梨学院高
43	内野手	照屋 寧生	スポーツマネジメント	170	75	右・右	創成館高
44	内野手	鳥山 広太郎	体育	174	78	右・左	羽水高
45	内野手	長岐 和哉	体育	170	75	右・右	水戸桜ノ牧高
46	内野手	中原 雄也	スポーツマネジメント	169	68	右・右	履正社高
47	内野手	藤井 辰磨	体育	173	85	右・右	横手高
48	内野手	山本 拓夢	児童スポーツ教育	165	69	右・右	袋井高
49	内野手	和田 泰陽	体育	173	71	右・左	工学院大学附属高
50	内野手	渡邉 太偉志	スポーツマネジメント	168	69	右・右	磐田東高
51	外野手	川田 琉儀	体育	170	70	右・左	富岡高
52	外野手	古滝 友哉	体育	174	65	右・左	健大高崎高
53	外野手	霜村 直樹	スポーツ文化	174	75	右・右	横浜隼人高
54	外野手	神宮寺 尚徳	スポーツ文化	170	73	右・左	日体大柏高
55	外野手	仲本 涼馬	体育	171	77	右・右	名護高
56	外野手	齋藤 耕太	体育	166	62	右・右	日体大柏高
57	外野手	佐藤 優太	スポーツマネジメント	178	92	右・右	大分鶴崎高
58	外野手	関根 敦武	体育	165	72	右・右	幕張総合高
59	外野手	福井 雄太	体育	170	65	右・右	明石商業高
60	外野手	福田 晃大	体育	174	71	右・右	安田学園高
61	外野手	藤井 康平	スポーツマネジメント	178	80	右・右	高岡商業高
62	外野手	舟生 陽葵	スポーツマネジメント	176	76	左・左	水城高
63	外野手	南 大輔	体育	175	70	右・右	花咲徳栄高
64	外野手	森田 翔	体育	178	74	右・右	桐光学園高
65	外野手	猶明 雅仁	スポーツマネジメント	176	76	右・右	富山商業高
66	外野手	吉松 靖尊	体育	169	72	右・右	朝倉高
67	マネージャー	上野 颯夏	体育				山梨学院高
68	学生コーチ	打本 唯人	保健医療				小松商業高
69	学生コーチ	諸喜田 真生	体育				興南高

3 Years

合計７５名
【投手　24名】【捕手 4名】
【内野手 20名】【外野手 11名】
【マネージャー 3名】【学生コーチ 13名】

No	ポジション	氏名	学部	身長	体重	投打	出身校
1	投手	井上 航汰	スポーツマネジメント	189	84	右・右	横浜隼人高
2	投手	上羽 哲平	体育	175	76	右・左	京都外大西高
3	投手	蒲生 直哉	保健医療	174	68	右・左	金光学園高
4	投手	佐竹 勇太郎	スポーツマネジメント	172	77	右・右	東海大相模高
5	投手	酒井 海央	体育	183	74	右・左	京都国際高
6	投手	澤 遼太郎	体育	171	73	右・右	夢野台高
7	投手	杉本 佳偉	体育	180	79	右・右	日体大荏原高
8	投手	坪井 飛翼	スポーツマネジメント	163	63	右・右	都立高島高
9	投手	敦賀 俊志	体育	173	76	右・左	弘前高
10	投手	長谷川 拓実	体育	183	87	右・右	智辯学園高
11	投手	八田 歩	体育	178	78	左・左	大和高
12	投手	深井 平良	体育	175	73	左・左	日体大柏高
13	投手	星野 圭吾	体育	175	71	右・右	日体大荏原高
14	投手	増子 龍佑	スポーツ文化	174	76	右・左	横浜高
15	投手	南山 夏夢	体育	176	72	右・右	伊那弥生ケ丘高
16	投手	嶺 太陽	体育	173	60	右・右	都立広尾高
17	投手	溝尾 海陸	体育	168	65	右・右	明石商業高
18	投手	望月 大雅	体育	168	69	右・右	乙訓高
19	投手	森 晃太郎	体育	180	72	右・左	九州学院高
20	投手	森 亮太	体育	180	88	右・右	浜松日体高
21	投手	山田 紘太郎	スポーツマネジメント	185	80	右・右	西尾東高
22	投手	山田 優太	スポーツマネジメント	177	75	右・左	大阪桐蔭高
23	投手	与良 大志	保健医療	173	77	右・左	能代高
24	投手	渡邉 敬太	体育	178	70	左・左	藤沢西高
25	捕手	櫻井 仁生	スポーツマネジメント	173	78	右・右	愛産大三河高
26	捕手	瀬戸口 大翔	スポーツマネジメント	173	70	右・右	伊集院高
27	捕手	髙橋 建心	体育	182	79	右・右	桐光学園高
28	捕手	髙橋 駿太	体育	176	70	右・右	暁星国際高
29	内野手	相澤 利俊	体育	175	72	左・右	山梨学院高
30	内野手	飯野 岳	スポーツマネジメント	172	70	右・左	掛川西高
31	内野手	伊東 大佑	体育	173	69	右・左	静清高
32	内野手	大和田 稜	体育	166	68	右・右	原町高
33	内野手	菊地 陽介	体育	182	88	右・左	能代高
34	内野手	五味 一朗	体育	178	78	右・右	大冠高
35	内野手	五味川 和也	スポーツ文化	168	65	右・右	郡上高
36	内野手	櫻井 球大	スポーツマネジメント	174	70	右・右	越ヶ谷高
37	内野手	重宮 涼	体育	178	78	右・右	明石商業高
38	内野手	杉山 弘将	スポーツマネジメント	176	68	右・左	愛工大名電高
39	内野手	ソン スンビン	体育	181	95	右・右	ブーチャン高
40	内野手	田中 力	体育	181	91	右・左	宇部鴻城高
41	内野手	辻 健志	体育	170	70	右・左	ルネサンス高
42	内野手	中島 優仁	体育	175	75	右・両	佐賀商業高
43	内野手	檜垣 将史	スポーツマネジメント	168	66	右・右	西湘高
44	内野手	松浦 佑星	体育	171	65	右・左	富島高
45	内野手	丸田 輝	体育	180	66	右・左	春日部共栄高
46	内野手	保田 賢汰	スポーツマネジメント	175	72	右・右	日体大荏原高
47	内野手	山住 魁斗	体育	164	65	右・右	都立大島高
48	内野手	山本 慎太朗	体育	173	73	右・左	桐蔭学園高
49	外野手	青山 柚月	スポーツマネジメント	170	77	右・右	松江北高
50	外野手	秋山 太洋	体育	181	89	右・左	桜美林高
51	外野手	岡部 宇裕	体育	172	58	右・右	明石商業高
52	外野手	酒井 伶太	体育	174	83	右・左	武生高
53	外野手	田代 龍之介	体育	180	83	右・左	東福岡高
54	外野手	中妻 翔	体育	170	72	左・左	常総学院高
55	外野手	中村 颯人	体育	175	74	右・右	横浜隼人高
56	外野手	野田 優人	スポーツマネジメント	180	82	右・右	筑陽学園高
57	外野手	本間 巧真	スポーツマネジメント	173	65	左・左	東海大相模高
58	外野手	森田 健太郎	体育	183	87	右・右	飯田風越高
59	外野手	山村 陸人	体育	170	71	右・右	瀧川学園滝川高
60	マネージャー	角田 慧	体育				福島県立郡山高
61	マネージャー	越智 雅恵	児童スポーツ教育				勝代高
62	マネージャー	佐藤 花梨	保健医療				東海大相模高
63	学生コーチ	海老原 史紘	スポーツマネジメント				宇都宮南高
64	学生コーチ	古城 和真	スポーツマネジメント				七里ガ浜高
65	学生コーチ	笹尾 京介	体育				秦野高
66	学生コーチ	佐藤 直央	体育				秋田中央高
67	学生コーチ	上西 晃士朗	体育				北見北斗高
68	学生コーチ	菅原 晃平	体育				一関第一高
69	学生コーチ	高橋 奏太	体育				高知追手前高
70	学生コーチ	中嶋 琳太郎	体育				湘南台高
71	学生コーチ	中野 寛司	体育				黒沢尻北高
72	学生コーチ	西崎 海翔	体育				宇都宮短大附高
73	学生コーチ	三浦 惇司	体育				宇治山田商高
74	学生コーチ	山田 璃久	体育				平塚学園高
75	学生コーチ	若田部 皆志	保健医療				福岡大大濠高

NIPPON SPORT SCIENCE UNIVERSITY

2021

BASEBALL CLUB

RECORD

※掲載されている学年は昨年度（2021 年度）のものです。

2021 GRADUATE

合計 ４９名

【投手　９名】

【内野手 9 名】【外野手 10 名】

【マネージャー 3 名】【学生コーチ 18 名】

No	ポジション	氏名	学部	身長	体重	投打	出身校
1	投手	伊藤　敦紀	スポーツマネジメント	181	75	右・左	健大高崎高
2	投手	岡部　仁	体育	175	75	右・左	日本大学第三高
3	投手	椛澤　寛太	体育	166	65	右・右	浦和東高
4	投手	川崎　翔生	体育	168	65	右・右	厚木西高
5	投手	北　拓海	体育	177	73	左・左	智辯学園和歌山高
6	投手	筒井　恒匡	体育	180	78	右・右	松本工業高
7	投手	鳥谷部　慎吾	体育	178	81	左・左	弘前東高
8	投手	中津　秀太	体育	181	70	右・右	京都外大西高
9	投手	早稲田　玲生	体育	178	80	左・左	宇部鴻城高
10	内野手	青木　鴻奈	体育	172	76	右・右	中部大第一高
11	内野手	渥美　陸	体育	175	80	右・左	日本大学高
12	内野手	石井　幸大	体育	177	70	右・左	愛工大名電高
13	内野手	石井　正純	体育	172	70	右・右	桜修館中等教育
14	内野手	市村　拓巳	体育	182	82	右・右	横浜高
15	内野手	添田　真聖	スポーツマネジメント	170	68	右・左	作新学院高
16	内野手	次森　大翔	体育	170	73	右・左	大分雄城台高
17	内野手	松尾　大志	スポーツマネジメント	169	54	右・右	蒜南高
18	内野手	三野原　愛望	体育	181	81	右・左	東福岡高
19	外野手	安藤　諭	スポーツマネジメント	182	78	右・右	健大高崎高
20	外野手	猪原　隆雅	体育	177	80	右・右	大冠高
21	外野手	大隈　郁也	体育	178	77	右・右	浜松日体高
22	外野手	椎名　修大	体育	176	77	右・右	遊学館高
23	外野手	橋本　篤弥	体育	178	78	右・左	敦賀気比高
24	外野手	細田　悠貴	スポーツマネジメント	177	72	右・左	木更津総合高
25	外野手	堀口　遼馬	体育	170	81	右・右	日大藤沢高

No	ポジション	氏名	学部	身長	体重	投打	出身校
26	外野手	前田　優太	保健医療	167	69	右・両	静岡高
27	外野手	山本　貴大	体育	179	80	右・右	羽水高
28	外野手	ワラス　開智	体育	170	73	右・左	常磐大学高
29	マネージャー	米田　智朗	スポーツマネジメント				星城高
30	マネージャー	畑中　壮太郎	スポーツマネジメント				三田学園高
31	マネージャー	原　泰士	体育				東海大諏訪高
32	マネージャー	山浦　翼萌	スポーツマネジメント				学法石川高
33	学生コーチ	一瀬　充弘	スポーツマネジメント				甲府西高
34	学生コーチ	牛木　大志	体育				高田北城高
35	学生コーチ	大塚　輝	スポーツマネジメント				向上高
36	学生コーチ	岡　泰生	体育				玉野光南高
37	学生コーチ	木部　聖	スポーツ文化				県立岐阜商業高
38	学生コーチ	小柳　勇人	体育				宮崎南高
39	学生コーチ	斎藤　友哉	スポーツマネジメント				福岡大大濠高
40	学生コーチ	菅野　凱斗	体育				大塚高
41	学生コーチ	鈴木　三志郎	スポーツマネジメント				オイスカ高
42	学生コーチ	相馬　陸虎	体育				都城西高
43	学生コーチ	田中　真	体育				光泉高
44	学生コーチ	殿谷　小次郎	体育				市立尼崎高
45	学生コーチ	久永　悠太	スポーツマネジメント				東海大福岡高
46	学生コーチ	古川　航輝	スポーツマネジメント				佐賀北高
47	学生コーチ	堀江　優羽	体育				水戸商業高
48	学生コーチ	水野　晋太朗	体育				三重高
49	学生コーチ	和田　翔太	体育				浜松日体高

東海大学 7 － 4 日本体育大学

【2回戦】

● 2021年4月11日（日）大田スタジアム　試合開始 16:24　終了 19:22 / 2時間58分

東海大	0	0	0	0	4	1	0	2	0	7
日体大	0	0	0	0	1	1	0	0	2	4

◇本塁打：小松［1号3ラン］（東）、二塁打：鵜沼（東）

〈審判　C：玉置　Ⅰ：滝沢　Ⅱ：三田村　Ⅲ：増山〉

▶反撃及ばず3点差敗退、先発の筒井が3ランを被弾

日体大の筒井と東海大の安里。同じ4年生投手の投げ合い。立ち上がり、安打と四球で走者を許したが、踏ん張る。昨年秋に続いてリーグ戦3度目（1勝）先発の筒井は五回、8、9番に粘られて連続四球。無死一、二塁。迎えるのは1番小松。ここで古城監督はバッテリーに「相手ベンチの作戦を探るため、初球をはずせ」と指示する。ところが、筒井の投じた初球、ストレートはやや真ん中低めへのストライク。

「初球は様子見をしてくるにちがいない」と小松は予測はしていたものの、左の好打者はこの甘い球を見逃さない。力強くバットを振り抜かれ、打球は快音を残して右翼スタンドへ。先制3ランである。

さらに2番鯨井にも1－2と追い込みながらも、4球目を中前へはじき返される。次打者の三ゴロを稲本がトンネル。この打球がレフトフェンス前のファウルゾーンを転々。左翼手がもたつく間に鯨井に一気にホームを踏まれる。4点目。

六回には、3番手の北が四球出塁の7番に、右翼手の落球により一塁からのホームインを許した。24度目の優勝を成し遂げた昨年秋のシーズンでは見られないようなボーンヘッド。八回にも、四球をきっかけにして7番以下に3連続長短打を浴び2点を献上した。

日体大は再び4点差を追う六回、代わった2番手高杉をとらえ、小儀の左前適時打で2点目を挙げ、なおも二死一、二塁の場面、代打橋本が左前へ安打を放つものの、左翼手の好返球により猪原がホーム寸前、タッチアウト。

九回には5番手の宮路を攻め、2番に起用された本間の左越え二塁打を足がかりに矢澤と猪原の適時打で2点を返して意地を見せたものの、中盤の失点が大きすぎ、連敗発進となった。

日体大の野球部、学生寮では3月中、コロナのクラスター（集団感染）が発生し、グラウンドでの全体練習を10日間ほど休まざるを得ず、そのため実践練習、オープン戦の経験が不足。その影響が打棒不振や守備の連係ミス、不安定さの面などに表れたようだ。

〔東海大〕

打順	位置	氏名	学年	高校名	打数	安打	打点
1	⑥	小松	3	東海大相模	5	1	3
2	④	鯨井	4	東海大市原望洋	4	2	0
3	③	小玉	4	東海大菅生	5	1	0
4	⑨	齋藤健	4	桐光学園	4	0	0
	9	政吉	3	済美	0	0	0
5	⑧	竹内	4	明石商	3	0	0
	H8	管	3	明豊	2	0	0
6	⑦	高田誠	4	広陵	2	0	0
	R7	金城	2	東海大相模	0	0	0
7	(D)	石川	2	東海大大阪仰星	2	0	0
	HD	鵜沼	1	東海大相模	2	1	0
8	②	亀田	4	東海大甲府	3	1	1
	H	金澤	2	広陵	1	0	0
	2	中屋	3	東海大札幌	0	0	0
9	⑤	吉田元	3	東海大相模	3	1	1
		合　計			36	7	5

氏名		学年	高校名	投球回	打者数	被安打	自責
○	安里	4	東海大相模	5	21	6	1
	高杉	4	東海大札幌	1	6	3	1
	加藤	2	東海大甲府	1	6	0	0
	諸隈	1	東海大相模	1	4	0	0
	宮路	4	東海大高輪台	1	8	3	1
	合　計			9	45	12	3

〔日体大〕

打順	位置	氏名	学年	高校名	打数	安打	打点
1	⑤	稲本	3	福岡大大濠	2	1	0
	H5	重宮	2	明石商	1	0	0
	H	添田	4	作新学院	0	0	0
	R4	中島	2	佐賀商	1	0	0
2	⑧	本間	2	東海大相模	4	2	1
3	⑨	堀口	4	日大藤沢	4	1	0
4	(D)	矢澤	3	藤嶺学園藤沢	3	1	1
5	⑦	細田	4	木更津総合	2	0	0
	36	石井幸	4	愛工大名電	2	0	0
	H	ワラス	4	常磐大学	0	0	0
6	③73	猪原	4	大冠	5	3	1
7	⑥	三野原	4	東福岡	3	0	0
	H	大塚	3	日大三	1	0	0
	7	宮川	3	奈良大附	1	0	0
8	④5	小儀	3	霞ヶ浦	4	2	1
9	②	高橋建	2	桐光学園	2	1	0
	H	橋本篤	4	敦賀気比	1	1	0
	2	打田	3	宇部鴻城	0	0	0
	H2	山下	1	京都外大西	2	0	0
		合　計			38	12	4

氏名		学年	高校名	投球回	打者数	被安打	自責
●	筒井	4	松本工	4 1/3	21	4	3
	恩田	3	前橋育英	2/3	2	0	0
	北	4	智辯学園和歌山	3	16	3	2
	酒井海	2	京都国際	2/3	4	0	0
	伊藤	4	健大高崎	1/3	1	0	0
	合　計			9	44	7	5

日本体育大学 1 － 2 東海大学

【1回戦】

● 2021年4月10日（土）大田スタジアム　試合開始 09:33　終了 11:41 / 2時間08分

日体大	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
東海大	0	0	0	0	0	2	0	0	×	2

〈審判　C：伊藤大　Ⅰ：小林　Ⅱ：田口　Ⅲ：畠山〉

▶3年生左腕矢澤が逆転打許し、黒星スタート

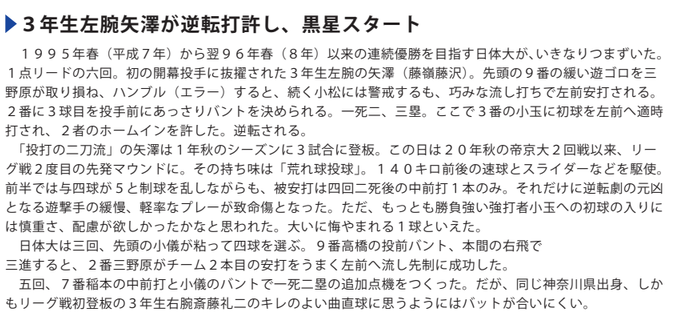
１９９５年春（平成７年）から翌９６年春（８年）以来の連続優勝を目指す日体大が、いきなりつまずいた。１点リードの六回。初の開幕投手に抜擢された３年生左腕の矢澤（藤嶺藤沢）。先頭の９番の緩い遊ゴロを三野原が取り損ね、ハンブル（エラー）すると、続く小松には警戒するも、巧みな流し打ちで左前安打される。２番に３球目を投手前にあっさりバントを決められる。一死二、三塁。ここで３番の小玉に初球を左前へ適時打され、２者のホームインを許した。逆転される。

「投打の二刀流」の矢澤は１年秋のシーズンに３試合に登板。この日は２０年秋の帝京大２回戦以来、リーグ戦２度目の先発マウンドに。その持ち味は「荒れ球投球」。１４０キロ前後の速球とスライダーなどを駆使。前半では与四球が５と制球を乱しながらも、被安打は四回二死後の中前打１本のみ。それだけに逆転劇の元凶となる遊撃手の緩慢、軽率なプレーが致命傷となった。ただ、もっとも勝負強い強打者小玉への初球の入りには慎重さ、配慮が欲しかったかなと思われた。大いに悔やまれる１球といえた。

日体大は三回、先頭の小儀が粘って四球を選ぶ。９番高橋の投前バント、本間の右飛で三進すると、２番三野原がチーム２本目の安打をうまく左前へ流し先制に成功した。

五回、７番稲本の中前打と小儀のバントで一死二塁の追加点機をつくった。だが、同じ神奈川県出身、しかもリーグ戦初登板の３年生右腕斎藤礼二のキレのよい曲直球に思うようにはバットが合いにくい。

１点差を追う最終回。代打石井三振後、ようやく代打遅美がチーム４本目の中前安打を奪う（代走中島）。二死後、稲本はよく粘った末に四球を選び一、二塁と詰め寄るものの、小儀がカウント１－１後の速球にややタイミングを狂わされ浅い左飛に。１４１球、３安打３四球。７三振を奪われて斎藤に完投で初勝利を献上した。



〔日体大〕

打順	位置	氏名	学年	高校名	打数	安打	打点
1	⑧	本間	2	東海大相模	3	0	0
2	⑥	三野原	4	東福岡	4	1	1
3	①9	矢澤	3	藤嶺学園藤沢	4	0	0
4	⑨7	堀口	4	日大藤沢	3	0	0
	H	石井幸	4	愛工大名電	1	0	0
5	⑦	細田	4	木更津総合	3	0	0
	2	打田	3	宇部鴻城	0	0	0
	H	遅美	4	日本大学	1	1	0
	R	中島	2	佐賀商	0	0	0
6	③	猪原	4	大冠	4	1	0
7	⑤	稲本	3	福岡大大濠	3	1	0
8	④	小儀	3	霞ヶ浦	2	0	0
9	②	高橋建	2	桐光学園	1	0	0
	H	添田	4	作新学院	1	0	0
	1	伊藤	4	健大高崎	0	0	0
		合　計			30	4	1

氏名		学年	高校名	投球回	打者数	被安打	自責
●	矢澤	3	藤嶺学園藤沢	7	25	3	1
	伊藤	4	健大高崎	1	3	0	0
	合　計			8	28	3	1

〔東海大〕

打順	位置	氏名	学年	高校名	打数	安打	打点
1	⑥	小松	3	東海大相模	3	1	0
2	④	鯨井	4	東海大市原望洋	2	0	0
3	③	小玉	4	東海大菅生	2	1	2
4	⑨	齋藤健	4	桐光学園	3	1	0
5	⑧	竹内	4	明石商	3	0	0
6	⑦	高田誠	4	広陵	2	0	0
7	(D)	半情	4	秀岳館	1	0	0
	RD	政吉	3	済美	1	0	0
8	②	亀田	4	東海大甲府	3	0	0
9	⑤	吉田元	3	東海大相模	2	0	0
		合　計			22	3	2

氏名		学年	高校名	投球回	打者数	被安打	自責
○	斎藤礼	3	東海大相模	9	35	4	1
	合　計			9	35	4	1

帝京大学 6 － 7 日本体育大学

【2回戦】

● 2021年4月25日（日）日体大健志台球場　試合開始 09:12　終了 11:54 / 2時間42分

帝京大	0	1	0	0	0	0	5	0	0	6
日体大	2	1	2	0	0	0	0	1	1×	7

◇本塁打：細田[1号2ラン]（日）、矢澤[1号ソロ]（日）、
二塁打：上野（帝）、光本（帝）、大友（帝）、小儀（日）

〈審判　C：田中　I：串田　II：土橋　III：福田〉

▶矢澤が劇的サヨナラアーチ、細田貴重な同点打

「カーン」――。快音を残した打球は大きな弧を描いて右翼席へ。終盤一挙に5失点し、逆転されたが、小儀と猪原、細田の3連打で追いついたあとの最終回無死。打席に立ったのは「4番、DH」の矢澤。三回からロングリリーフの岡野の初球、内角寄りのフォークボールの変化が小さい。スーッと来たのを見逃さずにバットを一閃。サヨナラ勝ちを呼び込む、殊勲の一発だった。矢澤はこの日、一ゴロと右飛、四球、一ゴロだった。「今日はよくボールが見えていた。先頭なので出塁することも重要。投球を見極めよう」と考えていた。そこへ甘い球が。力まず、インパクトに集中し、しっかり捉えた。さすが22年のプロ野球のドラフト候補にふさわしく、勝負強い強打者ぶりを一層印象づけた。
日体大は初回、小儀と猪原主将の連続適時打で2点、二回に中島の中前適時打、そして三回にも細田が豪快に2ランを叩き込む。シーズンに何度も起こらないような猛攻撃である。日体大ナインは「これで勝っても同然」。
2度目先発の筒井。調子が良くないながらも六回までに被安打4、1失点だけと、かわしていたが、突然七回につかまる。先頭の8番の三塁内野安打をきっかけに5連続長短打。なおも6番の左中間適時二塁打で計5失点。よもやの大逆転劇となった。日体大ベンチには「試合の流れは相手に移った。負けゲーム」との雰囲気が漂ったが、すぐその裏、小儀以下の選手が「負けてたまるか」という必死な思いで結果を出し、矢澤の殊勲打を導き出したといえよう。これで2勝2敗。

〔帝京大〕

打順	位置	氏名	学年	高校名	打数	安打	打点
1	⑧	草野	4	市立船橋	5	3	1
2	(D)	島野	1	履正社	2	0	0
	HD	上野	3	富山国際大附	1	1	2
	RD	眞藤	4	滋賀学園	0	0	0
3	⑨	光本	3	滋賀学園	4	1	2
4	③	岡野龍	3	智辯学園	4	1	0
5	④	宮川	4	成田	2	0	0
6	②	大友	4	府立鳥羽	4	1	1
7	⑦	藤井	2	津田学園	4	0	0
8	⑥	佐久間	2	享栄	4	1	0
	H	穴水	2	啓新	1	0	0
	6	仲与志	4	沖縄尚学	0	0	0
9	⑤	柴田	3	関東学園大附	2	1	0
	H	中里	2	仙台育英学園	1	1	0
	5	梧桐	2	京都翔英	1	0	0
		合　計			35	10	6

氏名	学年	高校名	投球回	打者数	被安打	自責
鈴木	3	横浜隼人	1 1/3	10	4	1
井田	3	国士舘	2/3	2	0	0
● 岡野佑	4	神戸国際大附	6	28	8	4
合　計			8	40	12	5

〔日体大〕

打順	位置	氏名	学年	高校名	打数	安打	打点
1	④	中島	2	佐賀商	3	1	1
2	⑧	本間	2	東海大相模	3	1	0
3	③	稲本	3	福岡大大濠	5	1	0
4	(D)	矢澤	3	藤嶺学園藤沢	4	1	1
5	⑤	小儀	3	霞ヶ浦	4	2	1
6	⑨	猪原	4	大冠	3	2	1
7	⑦	細田	4	木更津総合	4	2	3
8	⑥	渥美	4	日本大学	4	1	0
9	②	高橋建	2	桐光学園	2	1	0
	H	橋本篤	4	敦賀気比	1	0	0
	2	打田	3	宇部鴻城	0	0	0
		合　計			33	12	7

氏名	学年	高校名	投球回	打者数	被安打	自責
筒井	4	松本工	6	30	9	5
岡田	3	履正社	2/3	2	0	0
恩田	3	前橋育英	1 1/3	7	1	0
○ 伊藤敦	4	健大高崎	1	5	0	0
合　計			9	44	10	5

日本体育大学 8 － 1 帝京大学

【1回戦】

● 2021年4月24日（土）大田スタジアム　試合開始 12:42　終了 15:48 / 3時間06分

日体大	0	0	0	0	2	0	2	3	1	8
帝京大	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1

◇本塁打：中島[1号3ラン]（日）

〈審判　C：朝倉　I：川上　II：平山　III：大庭〉

▶矢澤安定感のある投球で通算2勝目、中島3ラン放つ

帝京大3投手の制球の甘さを突いて大量点を奪い、今季初勝利。まずは五回。先頭の代打大塚が四球を選び、三野原バント後に高橋建も四球で歩く。中島は三振に倒れたが、代打堀口が左前へ安打を放って満塁だ。この好機に、初めて3番に起用された稲本はしぶとく押し出し四球を選び、先制に成功する。なおも代わった粂から矢澤も押し出し四球を得て2点目を挙げた。
トップに起用の中島が二塁内野安打で出塁した七回には二死後に稲本と矢澤が連続四球。小儀の右前打で満塁とし、猪原が中前へ適時打を放って2者を生還させた。さらに八回、中島が3番手の戌亥から、二塁に左前打の中妻、一塁に遊撃内野安打の高橋建を置き、豪快に右翼席へ3ラン。九回にも三野原の左前適時打で加点した。9安打に12四球をからめて8得点だ。
2度目先発の矢澤は立ち上がり2三振を奪う上々の滑り出し。二回、先頭に初安打を左前へ打たれた。だが、落ち着いたマウンドさばきで後続を断つ。
140キロ台の速球と縦、横に変化する、キレの鋭いスライダーなどを軸に102球、7イニングを投げて被安打2、与四球2、奪三振13。実に安定感があり、危なげない無失点ピッチング。20年秋の帝京大戦以来の2勝目をマークした。

〔日体大〕

打順	位置	氏名	学年	高校名	打数	安打	打点
1	④7	中島	2	佐賀商	5	2	3
	H	橋本篤	4	敦賀気比	1	0	0
	9	ワラス	4	常磐大学	0	0	0
2	⑧	本間	2	東海大相模	2	0	0
	H7	堀口	4	日大藤沢	2	1	0
	4	渥美	4	日本大学	1	0	0
3	③	稲本	3	福岡大大濠	2	0	1
	1	恩田	3	前橋育英	0	0	0
4	①	矢澤	3	藤嶺学園藤沢	2	0	1
	3	石井幸	4	愛工大名電	1	0	0
5	⑤	小儀	3	霞ヶ浦	4	2	0
	R5	三木	3	履正社	0	0	0
6	⑨7	猪原	4	大冠	3	1	2
7	⑦	細田	4	木更津総合	1	0	0
	H	大塚	3	日大三	0	0	0
	R8	中妻	2	常総学院	2	1	0
8	⑥	三野原	4	東福岡	3	1	1
9	②	高橋建	2	桐光学園	3	1	0
		合　計			32	9	8

氏名	学年	高校名	投球回	打者数	被安打	自責
○ 矢澤	3	藤嶺学園藤沢	7	26	2	0
恩田	3	前橋育英	2	9	2	0
合　計			9	35	4	0

〔帝京大〕

打順	位置	氏名	学年	高校名	打数	安打	打点
1	⑦	中里	2	仙台育英学園	3	0	0
	H7	藤井	2	津田学園	1	1	0
2	⑥	佐久間	2	享栄	4	0	0
3	⑨	光本	3	滋賀学園	4	2	1
4	③	岡野龍	3	智辯学園	3	1	0
5	④	宮川	4	成田	4	0	0
6	②	大友	4	府立鳥羽	4	0	0
7	(D)	長屋	2	東邦	2	0	0
	HD	島野	1	履正社	2	0	0
8	⑤	柴田	3	関東学園大附	3	0	0
	H	今崎	1	智辯学園	1	0	0
9	⑧	草野	4	市立船橋	2	0	0
		合　計			33	4	1

氏名	学年	高校名	投球回	打者数	被安打	自責
● 永成	3	学法石川	4 2/3	21	1	2
粂	4	明秀学園日立	2	12	3	2
戌亥	4	奈良大附	2 1/3	13	5	4
合　計			9	46	9	8

【２回戦】

筑波大学　4 － 2　日本体育大学

● 2021 年 5 月 2 日（日）大和スタジアム　試合開始 15:04　終了 17:26 / 2 時間 22 分

筑波大	2	0	2	0	0	0	0	0	0	4
日体大	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2

〈審判　C：串田　Ⅰ：玉置　Ⅱ：福田　Ⅲ：佐々木〉

◇本塁打：矢澤［2 号 2 ラン］（日）、
二塁打：星野（筑、清水（筑）

▶３度目先発筒井攻略されて連勝ならず、矢澤の２ランも空砲

先発筒井の不調が誤算だった。初回、２番に死球を与えると、次打者に２－２からの６球目を左中間へ先制の二塁打。４番三飛後、５番にも中越えに適時二塁打され、あっさり加点される。勝負球を甘く配しては打ち取りにくかろう。

三回には先頭の４番に四球。一死後に死球を与えて筒井は降板する。代わった岡田は７番を三振に抑えたが、８番の三ゴロエラーなどで２者の生還を許した。野手の凡プレーによる失点を防がないと勝ち目はなかろう。

日体大はリーグ戦初先発、１８６センチの長身右腕西館の速球と鋭く落ちるフォークにタイミングを取りずらい。各打者が制球のよく投げ込まれ、為すすべなく凡打の山を繰り返す。７イニング、８５球、３安打１四球、無得点だった。

４点を追う九回。２イニング目の吉本から一死後、代打大塚が右前打を放つ。稲本右飛のあと、４番矢澤が右越えに２号２ランを叩き込み、追いすがったが、序盤の失点が痛すぎた。連勝は３でストップ。

〔筑波大〕

打順	位置	氏名	学年	高校名	打数	安打	打点
1	⑨	大竹哲	4	刈谷	4	0	0
	H9	伊藤	4	横手	0	0	0
2	④	中嶋	4	伊那北	3	1	0
3	⑦	星野	4	高崎	5	1	1
4	(D)	野中	4	秋田南	3	0	0
5	⑧	清水	3	日立第一	3	2	1
6	②	西浦	2	府立八尾	3	1	0
7	③	仲井	3	県立星陵	3	0	0
	H	大貝	2	西宮東	1	0	0
8	⑥	小川	3	札幌第一	4	0	0
9	⑤	濱内	3	履正社	3	2	0
	R	佐光	4	市立向陽	0	0	0
	5	佐藤耕	2	弥栄	0	0	0
		合　計			32	7	2

	氏名	学年	高校名	投球回	打者数	被安打	自責
○	西舘	3	盛岡第三	7	23	3	0
	吉本	4	彦根東	2	9	2	2
	合　計			9	32	5	2

〔日体大〕

打順	位置	氏名	学年	高校名	打数	安打	打点
1	④7	中島	2	佐賀商	2	0	0
	H7	ウラス	3	常磐大学	2	0	0
2	⑧	中妻	2	常総学院	2	0	0
	H	大塚	3	日大三	1	1	0
	R	本間	2	東海大相模	0	0	0
3	③	稲本	3	福岡大大濠	4	1	0
4	(D)	矢澤	3	藤嶺学園藤沢	4	1	2
5	⑤	小儀	3	霞ヶ浦	2	0	0
	5	三木	3	履正社	0	0	0
	H	橋本篤	4	敦賀気比	1	0	0
	5	渥美	4	日本大学	1	0	0
6	⑨	猪原	4	大冠	3	1	0
7	⑦	細田	4	木更津総合	1	0	0
	H4	添田	4	作新学院	2	0	0
8	②	高橋建	2	桐光学園	1	1	0
	H2	打田	3	宇部鴻城	2	0	0
9	⑥	石井幸	4	愛工大名電	2	0	0
	H	堀口	2	日大藤沢	1	0	0
	6	三野原	4	東福岡	0	0	0
		合　計			31	5	2

	氏名	学年	高校名	投球回	打者数	被安打	自責
●	筒井	4	松本工	2 1/3	15	5	2
	岡田	3	履正社	2/3	2	0	0
	恩田	3	前橋育英	6	22	2	0
	合　計			9	39	7	2

【１回戦】

日本体育大学　3 － 0　筑波大学

● 2021 年 5 月 1 日（土）大和スタジアム　試合開始 09:12　終了 11:42 / 2 時間 30 分

日体大	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3
筑波大	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

〈審判　C：松田　Ⅰ：朝倉　Ⅱ：豊泉　Ⅲ：水原〉

〔日体大〕

打順	位置	氏名	学年	高校名	打数	安打	打点
1	④	中島	2	佐賀商	5	0	0
2	⑧	本間	2	東海大相模	2	0	0
	H	添田	4	作新学院	1	1	0
	R8	中妻	2	常総学院	0	0	0
3	⑦	大塚	3	日大三	3	1	0
	H	三木	3	履正社	0	0	0
	7	細田	4	木更津総合	0	0	0
4	①	矢澤	3	藤嶺学園藤沢	4	2	0
5	⑤	小儀	3	霞ヶ浦	3	0	0
	H	堀口	4	日大藤沢	0	0	0
	R3	石井幸	4	愛工大名電	0	0	0
6	⑨	猪原	4	大冠	3	0	1
7	③5	稲本	3	福岡大大濠	4	1	1
8	②	高橋建	2	桐光学園	3	0	1
9	⑥	渥美	4	日本大学	2	0	0
	H	山下	1	京都外大西	1	0	0
	6	三野原	4	東福岡	1	0	0
		合　計			32	5	3

	氏名	学年	高校名	投球回	打者数	被安打	自責
○	矢澤	3	藤嶺学園藤沢	9	35	4	0
	合　計			9	35	4	0

〔筑波大〕

打順	位置	氏名	学年	高校名	打数	安打	打点
1	⑧	清水	3	日立第一	3	0	0
2	④	中嶋	4	伊那北	3	0	0
3	⑨	大竹哲	4	刈谷	2	0	0
4	(D)	野中	4	秋田南	3	1	0
5	⑦	星野	4	高崎	3	2	0
6	③	仲井	3	県立星陵	4	1	0
7	②	西浦	2	府立八尾	3	0	0
	H	大貝	2	西宮東	1	0	0
8	⑥	小川	3	札幌第一	3	0	0
	H	野澤	3	長岡	1	0	0
9	⑤	濱内	3	履正社	2	0	0
	H	今井	3	健大高崎	1	0	0
	5	佐藤耕	2	弥栄	0	0	0
		合　計			29	4	0

	氏名	学年	高校名	投球回	打者数	被安打	自責
●	佐藤隼	4	仙台	8 1/3	34	5	3
	吉本	4	彦根東	2/3	3	0	0
	合　計			9	37	5	3

▶猪原主将粘りの押し出し四球、矢澤が佐藤に投げ勝つ

日体大の矢澤と筑波大の佐藤隼との投げ合い。今季３度目先発の矢澤は立ち上がりいきなり四球。次打者を三振、捕手高橋健の強肩により二盗を刺してもらうも、３番に、またも四球。４番に二塁内野安打を許し一、二塁とされた。だが、次打者を捕飛に打ち取る。

二回にも先頭に左前へ安打されるも、自らがバントを巧みに処理して二塁を許さない。六回。先頭に死球出塁。一死後、投ゴロエラーと四球で満塁。この場面も、ニゴロ併殺で切り抜ける。

そして３点のリードをもらった九回。四球と左前安打で無死一、二塁のピンチを背負う。だが、キレのよい曲直球を操って６番以下を中飛と遊ゴロ、三振で締めた。

１４３球、被安打４、与四死球６。１０三振を奪う熱投、初の完封勝ちだ。「１学年上の佐藤さんより１イニングでも多く投げたかった。完封できてうれしい」（矢澤）味方打線は好投手の佐藤から二回と四回に稲本、大塚が安打を放つものの、チェンジアップやスライダーに眩惑され、決定打を奪えない。

ようやく０－０の九回。代打添田がチーム４本目の安打を奪うと（代走中妻）、代打三木のバント、矢澤の右前安打で一、三塁と攻め立てる。ここで堀口が代打に送られ、初球を死球出塁。一死満塁の絶好機を築く。６番の猪原はいきなり２ストライクと追いこまれる。それから驚異的に粘りをみせ、４球ファウルしたあとの９球目、押し出し四球を得て待望の勝ち越し点を挙げた。さらに稲本の三ゴロエラーで加点した。なおも満塁の好機。代わった吉本から高橋建が粘って押し出し四球をむしり取った。猪原の主将としてチームを引っ張る、本領発揮の場面でもあった。

桜美林大学 3 － 0 日本体育大学

【2回戦】

● 2021 年 5 月 16 日（日）等々力球場　試合開始 12:17　終了 14:26 / 2 時間 09 分

桜美林大	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3
日体大	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

◇二塁打：河原木（桜）、手塚（桜）、小儀（日）

〈審判　C：川上　I：菅野　II：大庭　III：田中〉

▶痛恨、筒井が痛打され、打線も援護できずに４敗目

５勝２敗で優勝争いのトップを走る桜美林大を止めるための大一番。
今季４度目先発の筒井は立ち上がり、トップ中野にいきなり左前打。バントと左前打で一、三塁と攻め立てられた。しかし、４番を三振、三塁走者も挟殺で殺してもらい、以降はキレのよい曲直球を駆使して１安打投球を展開。

球威に衰えが見え始めた七回、先頭に右中間へ二塁打。４番にはバント。次打者は警戒しすぎて四球を与えて一、三塁。ここで代打の切り札松江主将に外角球を合わせられて右中間へ痛打される。先取点を許して降板した。

代わった左腕岡田も左の代打に右前打。この満塁のピンチに８番に左越え二塁打を撃たれ２点を追加された。１６年秋以来、２度目の王座をめざす相手の気迫に圧倒された感もした。この日、筒井が復調ぶりをうかがわせるピッチングをみせていただけに余計に悔しさが残った。

日体大打線は今季好調の４年生左腕多間のキレのよい曲直球、荒れ球にほんろうされ、タイミングが合わない。九回、二死から猪原と小儀の連打を放ち、意地をみせたが、堀口が左邪飛に倒れた。１２５球６安打、今季初の完封負け。これで４勝４敗、桜美林大戦では１５勝１２敗１分けとなった。

〔桜美林大〕

打順	位置	氏名	学年	高校名	打数	安打	打点
1	(D)	中野	4	明大中野	4	2	0
2	⑥	森田智	3	霞ヶ浦	3	1	0
3	⑨	河原木	3	横浜	2	2	0
4	②	田島大	4	星槎国際湘南	2	0	0
5	⑤	磨	3	沖縄尚学	2	0	0
	4	小林由	4	盛岡大附	1	0	0
6	⑧	長嶋	2	千葉明徳	2	0	0
	H	松江	4	二松学舎大附	1	1	1
	R8	二ツ橋	3	桐光学園	1	0	0
7	③	北原	3	前橋育英	2	0	0
	H	遠藤	4	修徳	1	1	0
	3	七井	4	作新学院	1	0	0
8	④5	手塚	2	中央学院	4	1	2
9	⑦	稲村	2	健大高崎	3	0	0
		合　計			29	8	3

	氏名	学年	高校名	投球回	打者数	被安打	自責
○	多間	4	北海	9	34	6	0
	合　計			9	34	6	0

〔日体大〕

打順	位置	氏名	学年	高校名	打数	安打	打点
1	⑥	松浦	2	富島	4	0	0
2	④	中島	2	佐賀商	4	1	0
3	⑦	大塚	3	日大三	3	0	0
	H	添田	4	作新学院	1	0	0
4	(D)	矢澤	3	藤嶺学園藤沢	3	0	0
5	⑨3	猪原	4	大冠	3	1	0
6	⑤	小儀	3	霞ヶ浦	4	2	0
7	③	稲本	3	福岡大大濠	2	1	0
	H9	堀口	4	日大藤沢	2	0	0
8	②	高橋	2	桐光学園	2	0	0
9	⑧	本間	2	東海大相模	3	1	0
		合　計			31	6	0

	氏名	学年	高校名	投球回	打者数	被安打	自責
●	筒井	4	松本工	6 1/3	24	5	3
	岡田	3	履正社	2/3	3	2	0
	北	4	智辯学園和歌山	1/3	5	1	0
	勝本	3	明石商	1	3	0	0
	合　計			8 1/3	35	8	3

日本体育大学 4 － 2 桜美林大学

【1回戦】

● 2021 年 5 月 15 日（土）等々力球場　試合開始 16:16　終了 18:36 / 2 時間 20 分

日体大	1	0	0	1	0	0	2	0	0	4
桜美林大	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2

◇本塁打：猪原［1 号ソロ］（日）、
二塁打：堀口（日）、森田智（桜）

〈審判　C：橋本　I：増山　II：山口　III：長尾〉

▶矢澤成長の跡みせ、危なげなく完投勝利、猪原価値ある一発

野手の好守にも助けられてノーヒットを継続。だが、初安打を喫し、それをきっかけに張りつめた緊張感も薄れ、自ら投球リズムを一気に崩す場面、シーンも少なくないのが野球という競技である。

「４番・投手」の「二刀流」を実践する矢澤は４点リードの七回。先頭に４つ目の四球。２番の好打者森田に１－１後の速球を左越えへ初安打（三塁打）され、１点を失った。なおも、次打者の右犠飛で２点目を献上した。だが、次打者に死球を与えたものの、落ち着きは失わず、後続を抑えた。

つづく八回にも、死球と左前安打などで二死一、三塁の場面を背負った。それでも矢澤は落ち着いたプレート裁きで１番を二直に打ち取った。１２３球、被安打２で今季４度目の完投を果たし（３勝１敗）、優勝争いで首位を走る桜美林大に２敗目（５勝）をつけた。

日体大打線では、リーグ戦デビューとなった昨秋のシーズンに大活躍した２年生松浦がようやく腰痛が癒え、この試合から復帰。いきなり初回、トップ打者として右前へクリーンヒットを放ち、存在感を誇示するとともにチームにカツを入れる。松浦は本間のニゴロ、大塚の遊ゴロで三進。矢澤のゴロを一塁手がハンブルしている間に先制点を記した。四回には、４年生でただ一人先発出場の猪原が左翼席へホームラン。七回にも稲本の左前打などで二死二、三塁と攻め、代打男の堀口が右中間へ適時二塁打を奪う勝負強さを発揮し、見事期待に応えた。

〔日体大〕

打順	位置	氏名	学年	高校名	打数	安打	打点
1	⑥	松浦	2	富島	4	1	0
2	⑧	本間	2	東海大相模	4	1	0
3	⑦	大塚	3	日大三	4	0	0
4	①	矢澤	3	藤嶺学園藤沢	4	0	0
5	⑨	猪原	4	大冠	4	1	1
6	⑤	小儀	3	霞ヶ浦	2	1	0
7	③	稲本	3	福岡大大濠	4	1	0
8	②	高橋建	2	桐光学園	4	1	0
9	④	中島	2	佐賀商	1	0	0
	H	堀口	4	日大藤沢	1	1	2
	R4	石井幸	4	愛工大名電	1	0	0
	合　計				33	7	3

	氏名	学年	高校名	投球回	打者数	被安打	自責
○	矢澤	3	藤嶺学園藤沢	9	31	2	2
	合　計			9	31	2	2

〔桜美林大〕

打順	位置	氏名	学年	高校名	打数	安打	打点
1	⑤	磨	3	沖縄尚学	2	0	0
	H5	揚野	2	二松学舎大附	1	0	0
2	⑥	森田智	3	霞ヶ浦	3	1	1
3	⑨	河原木	3	横浜	2	0	1
4	②	田島大	4	星槎国際湘南	2	0	0
5	(D)	平川	2	関東第一	2	0	0
6	⑧	長嶋	2	千葉明徳	2	0	0
	H	中野	4	明大中野	0	0	0
	R8	二ツ橋	3	桐光学園	0	0	0
7	③	七井	4	作新学院	2	0	0
	H	遠藤	4	修徳	1	0	0
	3	北原	3	前橋育英	0	0	0
8	④	手塚	2	中央学院	2	1	0
9	⑦	稲村	2	健大高崎	3	0	0
	合　計				22	2	2

	氏名	学年	高校名	投球回	打者数	被安打	自責
●	土生	3	横浜	7	28	6	2
	武藤	1	前橋育英	1	3	0	0
	山本雅	3	中越	1	5	1	0
	合　計			9	36	7	2

武蔵大学 5 － 6 日本体育大学

【2回戦】

● 2021年5月23日（日）等々力球場　試合開始 15:27　終了 18:19 / 2時間52分

武蔵大	0	0	0	0	4	0	0	0	1	5
日体大	0	0	0	0	1	1	0	0	4×	6

◇三塁打：茂木（武）、　二塁打：前田颯（武）、堀口（日）

〈審判　C：鈴木研　Ⅰ：桜井　Ⅱ：川上　Ⅲ：土橋〉

〔日体大〕

打順	位置	氏名	学年	高校名	打数	安打	打点
1	⑥	松浦	2	富島	4	1	0
2	⑧	本間	2	東海大相模	4	2	0
3	⑨	矢澤	3	藤嶺学園藤沢	5	1	1
	R	中妻	2	常総学院	0	0	0
4	⑦	堀口	4	日大藤沢	4	1	0
5	⑤	小儀	3	霞ヶ浦	3	0	0
6	(D)	添田	4	作新学院	4	3	1
7	③	稲本	3	福岡大大濠	1	1	0
	H	市村	4	横浜	1	0	0
	3	三野原	4	東福岡	0	0	0
8	④	石井幸	4	愛工大名電	2	0	0
	H	橋本篤	4	敦賀気比	1	0	0
	2	打田	3	宇部鴻城	2	1	2
9	②	高橋建	2	桐光学園	1	0	0
	H	猪原	4	大冠	1	1	1
	R4	中島	2	佐賀商	1	0	0
		合　計			35	11	5

	氏名	学年	高校名	投球回	打者数	被安打	自責
	筒井	4	松本工	4	20	6	1
	北	4	智辯学園和歌山	1	5	1	1
	伊藤	4	健大高崎	1	4	0	0
○	勝本	3	明石商業	3	12	1	1
	合　計			9	41	8	3

〔武蔵大〕

打順	位置	氏名	学年	高校名	打数	安打	打点
1	⑥	松浦	2	富島	4	0	0
2	⑧	本間	2	東海大相模	3	0	0
3	⑤	小儀	3	霞ヶ浦	4	2	0
4	⑨	堀口	4	日大藤沢	4	2	0
5	(D)	猪原	4	大冠	3	0	0
	H	三木	3	履正社	1	0	0
6	③	稲本	3	福岡大大濠	2	0	0
	H	添田	4	作新学院	1	0	0
	4	中島	2	佐賀商	0	0	0
7	④	石井幸	4	愛工大名電	2	0	0
	H	橋本篤	4	敦賀気比	1	0	0
	3	三野原	4	東福岡	1	0	0
8	②	高橋建	2	桐光学園	1	0	0
	合　計				27	4	0

	氏名	学年	高校名	投球回	打者数	被安打	自責
	田中	2	日大二	6	28	9	2
	石綿	2	星槎国際湘南	2 1/3	12	1	3
●	松崎	1	聖徳学園	0	2	0	1
	鈴木啓	2	桐蔭学園	1/3	2	1	0
	合　計			8 2/3	44	11	6

▶最下位転落の危機救う見事な一打、土壇場での逆転サヨナラ劇

初の最下位決定戦出場へ残るは1イニング。点差は2から3へ。七回から4人目として登板の3年生右腕勝本（明石商）が九回、先頭に四球。つづく1番に左越えへ三塁打。点差を広げたい相手に5点目を献上した。

武蔵大ベンチには「これで勝てたぞ」の雰囲気が大いに漂う。それでも勝本が一層気を引き締め、なおも二死一、三塁の場面での追加点を防ぐ。その裏、2年生左腕の石綿に詰め寄り松浦四球、本間死球が連続出塁。矢澤は左邪飛に倒れたが、4番の堀口が粘って四球を選ぶ（代走中妻）。満塁だ。相手ベンチは堪らず、石綿から松崎へスイッチ。この新人には2度の先発経験（1勝）があるものの、リリーフには不慣れ。緊張しすぎてストライクが入らない。5番の小儀のとき、暴投で3点目をもぎとる。小儀は四球を選ぶ。次打者は最上級生の添田。この日スタメン出場し、3安打と好調。その添田も押し出し死球を得た。あと1点だ。

ここでマウンドには急きょ2年生左腕の鈴木啓。打者は途中出場の三野原に代わった細田。やや気負いすぎたのか二ゴロ。中妻は本封され、走者は入れ替わって二死満塁。続く打者は七回から途中出場の3年生打田（宇部鴻城）。2ストライクと追い込まれたが、ファウルで粘る。7球目。「外角低めへの球を逆らわずに左方向へ」との古城監督のアドバイス通り、左の好打者は鮮やかに三遊間を低いライナーで破り、2者を迎え入れた。リーグ戦4打席目、初安打が値千金の逆転サヨナラ打。勝負強さをまざまざと見せつける殊勲打だった。

打田は元々は内野手。今季は捕手が手薄。打撃を評価され、出場機会を増やすため捕手へコンバート。今季打席に立ったのはこの日の2打席と筑波大2回戦の2打席だった。「打撃力に光るものがあった。左対左も苦にしない。緊張する大一番の場面でよく期待に応えてくれた」（古城監督）

負ければ武蔵大、筑波大と同じく4勝（6敗）どまり、初の最下位決定戦出場の屈辱が待っていた。投手陣の不調で苦戦を強いられたが、最後まで諦めず、土壇場で各選手がよくつなぎ、チームがひとつになり、勝利をつかんだといえよう。底力を発揮し、最終ゲームでようやく5勝目。12年春以来、9年ぶり2度目の最下位転落の危機は免れた。

日本体育大学 0 － 1 武蔵大学

【1回戦】

● 2021年5月22日（土）等々力球場　試合開始 09:13　終了 11:00 / 1時間47分

日体大	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
武蔵大	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1

〈審判　C：畠山　Ⅰ：伊藤大　Ⅱ：三田村　Ⅲ：平山〉

▶「スミ1」に泣く、打線快音なく5敗目

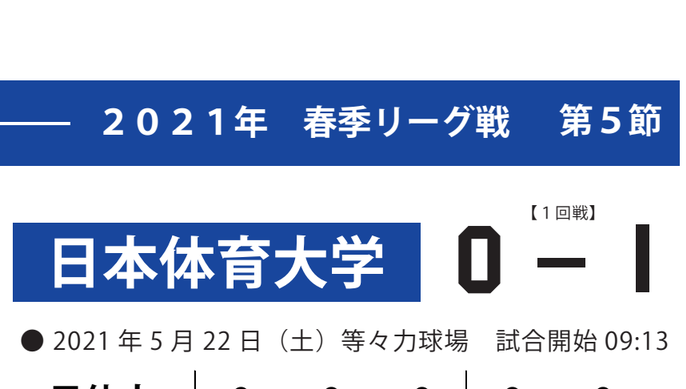
逆転制覇を果たすには絶対落とせない大事な一戦。日体大ベンチは、故障で守備に就けない猪原を指名打者で起用するため、矢澤は投手に専念する作戦。

立ち上がり、トップにストレートの四球。2番にカウント2ボール1ストライク後の4球目を左中間へ適時二塁打され、先取点を与えた。制球が定まらないうちの1球だった。死後、5番に右前打を喫したが、つづく打者を左飛に打ち取った。

二回以降は武器のストレートやスライダーなどはよくコントロールされ、与四球は2。9イニングを109球、被安打3で付け入る隙を与えなかった。

日体大打線は復調気配の4年生右腕山内に、両コーナーめがけ丁寧に投げ込まれ、なかなか好機をつくれない。六回、先頭の高橋建が死球で歩き、中妻のバントで二進したものの、松浦は二ゴロ。本間四球のあと、3番に入った小儀が二飛に。4番に起用の堀口が左前打した七回、代打攻勢をかけたが、後続ない。

九回、小儀と堀口が連打を放った。代打三木が送りバントに失敗したのが響き、最後は途中出場の三野原が一ゴロに打ち取られた。各打者には積極的に打とうという意思が見受けられた。やや早打ち、淡白な攻撃ぶりだったかも。4安打散発、今季2度目のゼロ封、手痛い5敗目を喫し、優勝争いから脱落した。



〔日体大〕

打順	位置	氏名	学年	高校名	打数	安打	打点
1	⑥	松浦	2	富島	4	0	0
2	⑧	本間	2	東海大相模	3	0	0
3	⑤	小儀	3	霞ヶ浦	4	2	0
4	⑨	堀口	4	日大藤沢	4	2	0
5	(D)	猪原	4	大冠	3	0	0
	H	三木	3	履正社	1	0	0
6	③	稲本	3	福岡大大濠	2	0	0
	H	添田	4	作新学院	1	0	0
	4	中島	2	佐賀商	0	0	0
7	④	石井幸	4	愛工大名電	2	0	0
	H	橋本篤	4	敦賀気比	1	0	0
	3	三野原	4	東福岡	1	0	0
8	②	高橋建	2	桐光学園	1	0	0
	H	細田	4	木更津総合	1	0	0
	2	打田	3	宇部鴻城	0	0	0
9	⑦	中妻	2	常総学院	2	0	0
	合　計				30	4	0

	氏名	学年	高校名	投球回	打者数	被安打	自責
●	矢澤	3	藤嶺学園藤沢	8	29	3	1
	合　計			8	29	3	1

〔武蔵大〕

打順	位置	氏名	学年	高校名	打数	安打	打点
1	⑧	茂木	1	星槎国際湘南	3	0	0
2	⑦	岩谷	4	秋田商	4	1	1
	9	斎藤	3	日大鶴ケ丘	0	0	0
3	⑤	林田	3	利府	3	0	0
4	⑨7	松下	3	佼成学園	3	0	0
5	③	前田颯	4	仙台育英学園	3	1	0
	3	大河原	3	東農大二	0	0	0
6	(D)	村上達	3	日大藤沢	2	0	0
	R	村岡	4	星槎国際湘南	0	0	0
7	④	西牧	3	聖光学院	3	0	0
8	⑥	片山	2	聖光学院	3	1	0
9	②	鹿倉	4	東海大菅生	3	0	0
	合　計				27	3	1

	氏名	学年	高校名	投球回	打者数	被安打	自責
○	山内	4	東海大菅生	9	34	4	0
	合　計			9	34	4	0

SBBL 春季リーグ戦 成績

勝敗表

順位	大学名	桜美林大	帝京大	東海大	日体大	筑波大	武蔵大	試合	勝	負	勝率
優勝	桜美林大	－	●0−2 ○3−2	●2−3 ●0−1	●2−4 ○0−1	○4−2 ○5−2	○4−3 ○3−0	10	6	4	0.60
2	帝京大	○2−0 ●2−3	－	○2−0 ●0−3	●1−8 ●6−7×	○2−1 ○4−2	○5×−4 ※○4−0	10	6	4	0.60
3	東海大	○3−2 ○1−0	●0−2 ○3−0	－	○2−1 ○7−4	○9−4 ●4−5	●3−5 ●2−8	10	6	4	0.60
4	日体大	○4−2 ●0−3	○8−1 ○7×−6	●1−2 ●4−7	－	○3−0 ●2−4	●0−1 ○6×−5	10	5	5	0.50
5	筑波大	●2−4 ●2−5	●1−2 ●2−4	●4−9 ○5−4	●7−9 ○4−2	－	○1−0 ○4−3	10	4	6	0.40
6	武蔵大	●3−4 ●0−3	●4−5× ●0−4	○5−3 ○8−2	○1−0 ●5−6×	●0−1 ※●3−4	－	10	3	7	0.30

※連盟規定により、10回よりタイブレーク適用

表彰選手

表彰		氏名	大学	学年	回数
最高殊勲選手		山本　雅樹	桜美林大	3	初
最優秀投手		多間　隼介	桜美林大	4	初
首位打者		猪原　隆雅	日体大	4	初
		小儀　純也	日体大	3	初
ベストナイン	投手	齋藤　礼二	東海大	3	初
	捕手	亀田　啓太	東海大	4	初
	一塁手	小玉　佳吾	東海大	4	初
	二塁手	中島　将喜	武蔵大	3	初
	三塁手	小儀　純也	日体大	3	初
	遊撃手	森田　智貴	桜美林大	3	初
	外野手	猪原　隆雅	日体大	4	初
	外野手	草野　里葵	帝京大	4	2
	外野手	茂木　陸	武蔵大	1	初
	指名打者	中野　航太	桜美林大	4	初

投手 10傑

順位	氏名	大学	試合	勝数	負数	回数	自責点	防御率
1	多間隼介	桜美林大	5	3	1	32 1/3	3	0.84
2	矢澤宏太	日体大	5	3	2	40	4	0.9
3	山内大輔	武蔵大	4	1	2	25	3	1.08
4	田中啓斗	武蔵大	6	1	1	29 2/3	5	1.52
5	斎藤礼二	東海大	7	4	2	42 1/3	10	2.13
6	岡野佑大	帝京大	7	3	2	35	9	2.31
7	佐藤隼輔	筑波大	6	2	4	41	12	2.63
8	土生翔太	桜美林大	4	0	2	23	8	3.13
9	筒井恒匡	日体大	5	0	3	23	14	5.48

打撃 10傑

順位	氏名	大学	試合	打席	打数	安打	打点	本塁打	打率
1	小儀　純也	日体大	10	40	32	11	2	0	0.344
1	猪原　隆雅	日体大	10	37	32	11	7	1	0.344
3	小松　勇輝	東海大	10	45	39	13	5	1	0.333
3	森田　智貴	桜美林大	10	42	36	12	4	0	0.333
5	草野　里葵	帝京大	10	42	35	11	5	0	0.314
6	中島　将喜	武蔵大	9	36	32	10	0	0	0.313
7	茂木　陸	武蔵大	10	44	42	13	2	0	0.310
8	松下　豪佑	武蔵大	10	41	33	10	6	1	0.303
9	齋藤　健成	東海大	10	42	35	10	2	0	0.286
9	小玉　佳吾	東海大	10	41	35	10	6	0	0.286

日本体育大学 3 － 1 帝京大学

【２回戦】

● 2021 年 9 月 12 日（日）バッティングパレス相石スタジアムひらつか　試合開始 12:10　終了 14:27 / 2 時間 17 分

日体大	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3
帝京大	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1

◇本塁打：光本［1 号ソロ］（帝）

〈審判　C：森　Ⅰ：齋藤　Ⅱ：土橋　Ⅲ：松田〉

▶４番矢澤が先制打、勝本らの継投策で連勝スタート

安打に敵失を絡めて好機をつくり、先制した。四回一死後である。２番の中妻が一、二塁間を破る。小儀の三ゴロエラーで一、三塁とし、「４番・指名打者（ＤＨ）」矢澤が右前へ強烈な適時打を奪う。なおも猪原四球。満塁と攻め立て、６番に定着の打田のゴロを二塁手が二塁への悪送球を犯す間に２者が生還した。

リーグ戦初先発の３年生右腕の勝本（明石商）は１９１センチの長身を生かした投球フォームから力強い球を投げ込み、３イニングを無安打、１死球に。四回から登板の同じく３年生恩田（前橋育英）は先頭に三塁線突破の安打を許すも、次打者の投ゴロを併殺に斬って取った。

六回からマウンドに上がった同学年の平田（智弁和歌山）も先頭に中前打を奪われる。しかし、ニゴロ併殺でピンチを脱した。つづく七回二死後、４番光本にカウント２－１後の速球を左翼へ本塁打された。バックの守りが固くなり、投手陣が投球に専念できる環境になってきたように思われた。

今季から抑え役に回る４年生右腕の筒井（松本工）。２点リードの八回に登板し、いきなり四球を選ばれ、一死後、８番に右前打。さらに１番にストレート四球。だが、この二死満塁の場面も、２番を空振りの三振に。九回にも先頭に安打を打たれたが、後続を断った。甘い投球も目に付いた。気負った相手打者の力みにも助けられた感じがした。

〔日体大〕

打順	位置	氏名	学年	高校名	打数	安打	打点
1	⑥	松浦	2	富島	3	0	0
2	⑧	中妻	2	常総学院	3	1	0
3	⑤	小儀	3	霞ヶ浦	4	1	0
	R7	本間	2	東海大相模	0	0	0
4	(D)	矢澤	3	藤嶺学園藤沢	4	1	1
5	⑦	猪原	4	大冠	3	0	0
	5	石井幸	4	愛工大名電	0	0	0
6	②	打田	3	宇部鴻城	4	0	0
7	③	竹田	3	熊本城北	1	0	0
	H	堀口	4	日大藤沢	1	0	0
	3	三野原	4	東福岡	1	0	0
8	⑨	南	1	花咲徳栄	4	1	0
9	④	中島優	2	佐賀商	3	1	0
		合　計			31	5	1

〔帝京大〕

打順	位置	氏名	学年	高校名	打数	安打	打点
1	⑧	草野	4	市立船橋	3	1	0
2	(D)	山本	1	日大藤沢	2	0	0
	HD	森山	4	樹徳	2	0	0
3	③	島野	1	履正社	4	1	0
4	⑨	光本	3	滋賀学園	4	1	1
5	⑦	岡野龍	3	智辯学園	4	0	0
6	④	宮川	4	成田	2	0	0
7	②	大友	4	府立鳥羽	3	1	0
8	⑥	佐久間	2	享栄	3	1	0
9	⑤	柴田	3	関東学園大附	2	1	0
	H	上野	3	富山国際大付	1	0	0
	5	梅桐	2	京都翔英	0	0	0
		合　計			30	6	1

〔日体大〕

	氏名	学年	高校名	投球回	打者数	被安打	自責
	勝本	3	明石商	3	9	0	0
○	恩田	3	前橋育英	2	6	1	0
	平田	3	智辯学園和歌山	2	8	3	1
	筒井	4	松本工	2	10	2	0
		合　計		9	33	6	1

〔帝京大〕

	氏名	学年	高校名	投球回	打者数	被安打	自責
●	戌亥	4	奈良大附	3 2/3	16	2	0
	西澤	4	聖望学園	2 1/3	9	1	0
	粂	4	明秀学園日立	3	11	2	0
		合　計		3	11	2	0

帝京大学 0 － 4 日本体育大学

【１回戦】

● 2021 年 9 月 11 日（土）バッティングパレス相石スタジアムひらつか　試合開始 15:26　終了 18:13 / 2 時間 45 分

帝京大	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日体大	0	0	0	1	0	0	1	2	×	4

〈審判　C：鈴木孝　Ⅰ：長尾　Ⅱ：平山　Ⅲ：山口〉

▶１５０キロ計測、矢澤自身２度目の完封勝ち、小儀・中島が適時打

開幕戦の先発を初めて任された３年生左腕の矢澤はいきなり死球。送りバントを決められたものの、球速１４９キロを数える速球などで連続三振で切り抜ける。最終回にはアウト３つをすべて三振に斬り、ゲームセット。「スピードがあったし、スライダーのキレも抜群に良かった」とは相手の唐沢監督。安打を許したのは四回一死後の１４人目と九回二死後の２本だけ。三回、先頭に四球を配し、自らの野選、バントで唯一三塁を踏ませたが、２番を投ゴロで本塁封殺、次打者を左飛に打ち取った。９イニング、１２９球を投げ、１１三振を奪った内容には文句のつけようがなかった。

「投打二刀流」で本格デビューした２１年春、５試合４０回投げて与四死球２２（被安打１４、３勝２敗）を数えた。荒れ球でコントロールがままならないという印象がぬぐえなかった。この日は昨シーズン後から鍛え始めた下半身を使った投球術を駆使し、自己最速の１５０キロをも計測。今春の筑波大１回戦に続き、２度目の完封勝ち（通算５勝目）。

日体大は初回、トップの松浦が右前打し二盗に成功するも、後続はあっけなく凡退。嫌なムードが漂いかけた。ようやく四回一死後。５番猪原がチーム４本目の安打を奪って出塁。敵失と暴投で二、三塁の好機をつかみ、初スタメン竹田の遊ゴロで猪原が返って先制した。七回には３番手粂を攻め、一死から松浦の四球をきっかけに中妻の三塁内野安打で一、三塁とし、３番小儀の巧みな右前打で２点目。つづく八回にも中妻適時打などで２点を加えた。１３安打で４得点、攻め方の工夫にやや物足りなさが残った。

〔帝京大〕

打順	位置	氏名	学年	高校名	打数	安打	打点
1	⑧	草野	4	市立船橋	2	0	0
2	(D)	山本	1	日大藤沢	2	0	0
	HD	長屋	2	東邦	0	0	0
3	③	島野	1	履正社	4	0	0
4	⑨	光本	3	滋賀学園	4	0	0
5	⑦	岡野龍	3	智辯学園	4	1	0
6	④	宮川	4	成田	3	0	0
7	②	大友	4	鳥羽	3	0	0
8	⑥	佐久間	2	享栄	2	0	0
9	⑤	柴田	3	関東学園大附	2	0	0
		合　計			26	1	0

	氏名	学年	高校名	投球回	打者数	被安打	自責
●	鈴木	3	横浜隼人	3 2/3	18	6	0
	井田	3	国士舘	1/3	1	0	0
	西澤	4	聖望学園	2	7	2	0
	粂	4	明秀学園日立	2	13	5	2
		合　計		8	39	13	2

〔日体大〕

打順	位置	氏名	学年	高校名	打数	安打	打点
1	⑥	松浦	2	富島	3	1	0
2	⑧	中妻	2	常総学院	4	2	1
3	⑤	小儀	3	霞ヶ浦	5	1	1
4	①	矢澤	3	藤嶺学園藤沢	4	1	0
5	⑦	猪原	4	大冠	4	2	0
6	②	打田	3	宇部鴻城	4	1	0
7	③	竹田	3	熊本城北	3	0	1
	3	三野原	4	東福岡	0	0	0
8	⑨	南	1	花咲徳栄	4	3	0
9	④	中島優	2	佐賀商	4	2	0
		合　計			35	13	3

	氏名	学年	高校名	投球回	打者数	被安打	自責
○	矢澤	3	藤嶺学園藤沢	9	32	2	0
		合　計		9	32	2	0

【１回戦】

筑波大学 5 － 3 日本体育大学

● 2021 年 9 月 19 日（土）　等々力球場　試合開始：12:03　終了：14:42 / 2 時間 39 分

筑波大	0	0	0	0	1	0	0	0	4	5
日体大	1	0	1	1	0	0	0	0	0	3

◇二塁打：清水（筑）、中妻（日）、小儀（日）

〈審判　C：矢部　Ⅰ：浅野　Ⅱ：朝倉　Ⅲ：三田村〉

▶バッテリーの間に不安定感、ゲームを支配できず、痛恨の逆転負け

２点リードで迎えた最終回。矢澤を継いで八回から登板の平田が先頭の片岡主将に中前へ痛打。つづく８番にも初球を左前打される。バントを決められて二、三塁。代打仲井のとき、今季からマスクをかぶった打田が捕逸を犯し、片岡に生還される。なおも三塁の場面。この仲井空振り三振のあと２、３番に連続死球。二死満塁。ここで日体大ベンチは堪らず恩田にスイッチする。

打者は強打の清水。代わった恩田は緊張しているのかボール、ボール。ようやく３球目にストライクを入れたが、３－１後の５球目、甘い球を配して右中間へ二塁打。３者にホームインされ、一気に逆転された。３－５。先発の矢澤。いきなり連続三振の立ち上がりをみせたが、二回にも先頭に三塁線へバント安打を奪われるなど投球は安定せず、毎回四球を与える。３点リードの五回、先頭に中前打され、バントとーゴロで三進を許す。３番にこの日５つめの四球を与え、４番の清水に強烈に振り抜かれ、右前へ適時打を浴びた。

ピッチングは低調。球数も１０５球を数え、与四球は５。あえなく七回限りで交代した。矢澤、平田、恩田ら、どの投手も制球が悪かった。しかも球威に乏しく、甘い球を配して痛打されたようだ。２４度目の王座に輝いた２０年秋以来の開幕３連勝は成らず。３点を先取しても相手にとどめを刺せず、勝てない。なんとも不甲斐ない戦いぶりだったのではないか。５敗した２１年春季と同じような屈辱を味わいたくないもの。奮起を期待したい。

日体大の敗因には①松浦、中妻の連打と小儀の四球で満塁と攻め立てた初回、猪原の三ゴロで先制したものの、加点できなかったこと②五回、中妻が中越え二塁打を放ち、小儀の遊ゴロで三塁に突っ込んで刺されたこと③２点差に迫られたあとの七回無死一、二塁に代打起用の三木が、またも送りバントに失敗し、相手につけこまれる隙を与えたなど一一要所での攻め方が拙くて淡白、チグハグだった点が挙げられよう。

これで対筑波大戦は２１春の２回戦黒星など、１９年春からの５連敗を含め７６敗（２１４戦１３４勝、４分け）。

〔筑波大〕

打順	位置	氏名	学年	高校名	打数	安打	打点
1	⑤	永戸	1	八千代松陰	2	0	0
	H	仲井	3	県立星陵	1	0	0
	2	成沢	2	東邦	0	0	0
2	⑦	伊藤	4	横手	4	0	0
	H	阪上	4	須磨学園	0	0	0
	R	今井	3	健大高崎	0	0	0
	6	坂口	4	東筑	0	0	0
3	(D)	星野	4	高崎	1	0	0
4	⑨	清水	3	日立第一	5	2	4
5	⑧	上中尾	4	敦賀気比	3	1	0
	H	大高	2	星稜	1	0	0
	8	石毛	2	県立相模原	1	0	0
6	③	濱内	3	履正社	4	0	0
7	④5	片岡	4	報徳学園	2	1	0
8	⑥	小川	3	札幌第一	3	1	0
	H	大竹哲	4	刈谷	1	1	0
	R7	佐光	4	市立向陽	0	0	0
9	②	西浦	2	府立八尾	3	2	0
	H4	中嶋	4	伊那北	0	0	0
		合　計			31	8	4

〔筑波大〕

氏名	学年	高校名	投球回	打者数	被安打	自責
西舘	3	盛岡第三	3 2/3	18	4	1
北爪	3	高崎	1 2/3	8	1	0
村上	2	今治西	2/3	5	1	0
○ 吉本	4	彦根東	3	8	0	0
合　計			9	39	6	1

〔日体大〕

打順	位置	氏名	学年	高校名	打数	安打	打点
1	⑥	松浦	2	富島	4	1	0
2	⑧	中妻	2	常総学院	4	2	0
3	⑤	小儀	3	霞ヶ浦	4	1	0
4	①9	矢澤	3	藤嶺学園藤沢	2	0	1
5	③	猪原	4	大冠	3	0	1
	H	三木	3	履正社	1	0	0
	1	平田	3	智辯学園和歌山	0	0	0
	1	恩田	3	前橋育英	0	0	0
6	②	打田	3	宇部鴻城	4	1	0
7	⑨	南	1	花咲徳栄	1	0	0
	3	石井幸	4	愛工大名電	1	0	0
8	⑦	本間	2	東海大相模	3	0	0
9	④	中島優	2	佐賀商	4	1	0
		合　計			31	6	2

〔日体大〕

	氏名	学年	高校名	投球回	打者数	被安打	自責
●	矢澤	3	藤嶺学園藤沢	7	30	5	1
	平田	3	智辯学園和歌山	1 2/3	9	2	3
	恩田	3	前橋育英	1/3	2	1	0
	合　計			9	41	8	4

【２回戦】

日本体育大学 5 － 6 筑波大学

● 2021 年 10 月 2 日（土）日体大健志台球場　試合開始 15:13　終了 18:31 / 3 時間 18 分

日体大	1	0	4	0	0	0	0	0	0	5
筑波大	6	0	0	0	0	0	0	0	0	6

◇本塁打：中嶋（筑）

〈審判　C：畠山　Ⅰ：豊泉　Ⅱ：山口　Ⅲ：加藤〉

▶矢澤大不調、いきなり一挙に６失点、１点及ばず

猪原の適時打で１回、１点先取した直後、先発の矢澤は先頭を三振に取ったが、２番に左中間へ二塁打される。体調に異常をきたしていたのか、投球に狂いを生じさせ、続く打者にストライクを取れずに四球。４番にはカウントを整えられず、３－１から右前へ同点の適時打を奪われた。さらに５番にもボールを３つ先行させ、あげくに四球。満塁。ここで６番に右前へ適時打、そして四球、連打、左犠飛などと続かれ打者１１人に５安打、３四球、６失点の大乱調。これまでになかった制球難、単調な投球ぶりが顔をのぞかせた。

それでも二回以降は、気を取り直し、まずまずの投球を示して２安打に抑えて追加点を許さず、立ち直りの兆しをみせた。

日体大打線は５点を追う三回、松浦の遊ゴロエラーをきっかけに２番中妻のバント安打などで一、三塁の好機をつかみ、中島、猪原の適時打などで４点を返したものの、５投手の継投でかわされて１点差負け。初回の大量失点が痛すぎた。

〔日体大〕

打順	位置	氏名	学年	高校名	打数	安打	打点
1	⑥	松浦	2	富島	6	0	0
2	⑧	中妻	2	常総学院	4	3	0
3	④	中島優	2	佐賀商	5	2	1
4	①9	矢澤	3	藤嶺学園藤沢	3	2	0
5	③	猪原	4	大冠	5	2	2
6	⑨	南	1	花咲徳栄	2	0	0
	H	添田	4	作新学院	0	0	0
	2	高橋建	2	桐光学園	0	0	0
	H	橋本篤	4	敦賀気比	1	0	0
7	⑤	稲本	3	福岡大大濠	2	0	0
	5	小儀	3	霞ヶ浦	1	0	0
	H5	石井幸	4	愛工大名電	0	0	0
	H	渥美	4	日本大学	0	0	0
8	②	打田	3	宇部鴻城	1	0	0
	H	堀口	4	日大藤沢	0	0	0
	R	宮川	3	奈良大附	0	0	0
	1	勝本	3	明石商	0	0	0
	H	細田	4	木更津総合	1	1	0
9	⑦	本間	2	東海大相模	4	1	1
		合　計			35	11	4

〔筑波大〕

打順	位置	氏名	学年	高校名	打数	安打	打点
1	(D)	今井	3	健大高崎	2	0	1
2	④	中嶋	4	伊那北	4	1	0
3	⑦	星野	4	高崎	3	0	0
	8	石毛	2	県立相模原	0	0	0
4	⑧9	清水	3	日立第一	4	1	1
5	⑤	濱内	3	履正社	2	0	0
	H5	永戸	1	八千代松陰	1	0	0
6	③	片岡	4	報徳学園	4	2	1
7	⑨7	伊藤	4	横手	2	0	1
8	②	西浦	2	府立八尾	3	1	1
	H	大竹哲	4	刈谷	1	0	0
	2	成沢	2	東邦	0	0	0
9	⑥	小川	3	札幌第一	4	2	1
		合　計			30	7	6

〔日体大〕

	氏名	学年	高校名	投球回	打者数	被安打	自責
●	矢澤	3	藤嶺学園藤沢	6	30	7	6
	勝本	3	明石商	2	6	0	0
	合　計			8	36	7	6

〔筑波大〕

	氏名	学年	高校名	投球回	打者数	被安打	自責
	西舘	3	盛岡第三	2 2/3	18	6	3
○	北爪	2	高崎	3 1/3	14	2	0
	吉本	4	彦根東	1 2/3	8	2	0
	浅井	4	名古屋大教育学部	1/3	1	0	0
	山田拓	2	川越東	1	5	1	0
	合　計			9	46	11	3

【2回戦】

日本体育大学　1 － 2　桜美林大学

● 2021年9月26日（日）等々力球場　試合開始 15:31　終了 17:56 / 2時間25分

日体大	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
桜美林大	0	0	0	0	0	0	0	0	2×	2

〈審判　C：下里　Ⅰ：畠山　Ⅱ：増山　Ⅲ：玉置〉

◇三塁打：矢澤（日）

二塁打：中野（桜）、磨（桜）

〔日体大〕

打順	位置	氏名	学年	高校名	打数	安打	打点
1	⑥	松浦	2	富島	4	1	0
2	⑧	中妻	2	常総学院	4	1	0
3	(D)	堀口	4	日大藤沢	2	0	1
4	③	猪原	4	大冠	4	0	0
5	⑨	矢澤	3	藤嶺学園藤沢	4	2	0
6	⑤	小儀	3	霞ヶ浦	4	0	0
	5	石井幸	4	愛工大名電	0	0	0
7	⑦	南	1	花咲徳栄	4	0	0
8	②	打田	3	宇部鴻城	2	0	0
	H	飯田	1	常総学院	1	0	0
	2	高橋建	2	桐光学園	0	0	0
9	④	中島優	2	佐賀商	2	0	0
		合　計			31	4	1

	氏名	学年	高校名	投球回	打者数	被安打	自責
	勝本	3	明石商	6	21	2	0
●	筒井	4	松本工	2 1/3	11	2	2
	合　計			8 1/3	32	4	2

〔桜美林大〕

打順	位置	氏名	学年	高校名	打数	安打	打点
1	⑧	長嶋	2	千葉明徳	3	2	0
	H8	二ツ橋	3	桐光学園	1	0	0
2	⑦	稲村	2	健大高崎	4	0	0
3	⑥	森田智	3	霞ヶ浦	2	0	0
4	(D)	中野	4	明大中野	3	1	0
	RD	小林由	4	盛岡大附	0	0	0
	HD	関	4	佐久長聖	0	0	0
	RD	奥村	4	桐陽	0	0	0
5	⑤	磨	3	沖縄尚学	4	1	2
6	③	揚野	2	二松學舎大附	3	0	0
7	⑨	河原木	3	横浜	3	0	0
8	②	田島大	4	星槎国際湘南	2	0	0
	H	遠藤	4	修徳	1	0	0
	2	福田	4	市立岐阜商	0	0	0
9	④	手塚	3	中央学院	2	0	0
		合　計			28	4	2

	氏名	学年	高校名	投球回	打者数	被安打	自責
○	多間	4	北海	9	34	4	1
	合　計			9	34	4	1

▶1点差守り切れず、２度目の逆転負け、先発勝本の好投ふいに

３勝１敗。東海大と武蔵大と並び優勝争いのトップを並走する日体大にとっては誠に大事な一戦。

４年生右腕の筒井は七回、先発し力投の勝本の後を継ぐ。代わりばな二塁打を浴びた。勝ち越したあとの八回にも一死後、四球を選ばれたものの、後続を断つ。そして１点リードで迎えた最終回―。筒井は先頭を空振り三振に打ち取るも３番に四球。代打関のとき、八回からマスクをかぶっていた高橋建がボール球をそらし、捕逸を犯す。その関にも粘られ四球で歩かせてー、二塁。高橋健は小口のあと、２１年春から正捕手となっていたが、今季は打田にその座を奪われている。

打席は５番の磨（沖縄尚学）。打撃力に定評があり、落ち着き払った立ち振る舞いの３年生に力いっぱいバットを振り抜かれ右中間へ長打された。投球が甘かった。１－２。痛恨の逆転のサヨナラ負けである。

筒井は今春、制球が定まらず、球威も不足がち。５試合投げて０勝３敗（２３回与四死球１４、２０失点）。抑え役を任される今季、４番手で登板した帝京大２回戦では被安打２、与四球２。登板２戦目のこの日でも依然として不安定な内容を改善できず、納得できるような出来ではなさそうだった。

一方の日体大打線。最上級生の多間に６安打に抑えられて０－３で敗れ、リーグ優勝をさらわれた今春と同じように、テンポよく、頭脳的に投げ込まれる。矢澤が中越えの大三塁打を放った五回無死では、６番小儀が中飛、南三振、そして期待の打田は遊ゴロに倒れた。つづく六回一死後、三塁内野安打の松浦が二盗成功、このあと３番堀口も四球で歩いて好機を広げた。しかし、今春首位打者の４番猪原が打ち損じて遊ゴロに倒れゼロ行進。ようやく八回、先頭の９番中島よく粘って四球出塁。松浦の遊ゴロ、中妻の巧みな流し打ちで一死一、三塁とし、堀口の右犠飛でようやく先制点をもぎとっていた。だが‥‥。

元プロ野球監督の野村克也さんの言葉に「勝負事、不思議な負けなし」――がある。攻撃の仕方や投手交代期、起用法などで誤り、ミスを犯せば勝ちゲームとはなりにくい。

【1回戦】

桜美林大学　0 － 2　日本体育大学

● 2021年9月25日（土）等々力球場　試合開始 08:59　終了 11:18 / 2時間19分

桜美林大	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日体大	1	0	0	0	1	0	0	0	×	2

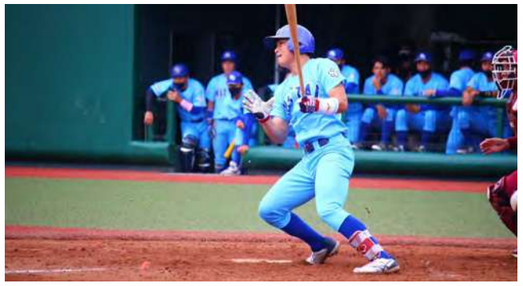
〈審判　C：橋本　Ⅰ：小林　Ⅱ：深澤　Ⅲ：桜井〉

◇本塁打：南［1号ソロ］

▶矢澤９奪三振で２度目の完封勝ち、１年生南が初ホーマー

矢澤がいきなり連続奪三振の立ち上がるも、二回、先頭に中前打されるのを見て、９イニングを投げ切れるとは予測できにくかった。最速１５０キロを計測したこともあるストレートの球速は１４５キロほど。三回、死球を与えた走者をバント、遊ゴロで三進させ、つづく四回も先頭に安打。二盗、三盗に成功されて二死三塁等――のピンチを招く。随所で疲労感も感じられ、とても絶好調とは思えなかったからだ。だが、得意のスライダーなど変化球を要所で駆使し、相手打者を寄せ付けず被安打３、与四死球３（うち四球２）。１１９球、９三振を奪い、自身今季２度目のシャットアウトを成し遂げた。見事というほかはなかった。

日体大は初回、松浦中飛後、中妻が四球出塁。果敢に二盗を決め、今季初めて先発出場した堀口の中飛で判断よく三進し、４番猪原の初球、捕逸で先取点を記した。二回には６番中島と７番南の連打、四回一死から小儀四球と中島の右前打、五回にも松浦がチーム４本目の安打や中妻一ゴロエラー、堀口四球などで二死一、二塁――と追加点機をつくるも、いずれも後続が凡退。七回、先発出場を勝ち取った強打の１年生南（花咲徳栄）の初本塁打でようやく加点し、矢澤を援護した。



〔桜美林大〕

打順	位置	氏名	学年	高校名	打数	安打	打点
1	⑧	長嶋	2	千葉明徳	3	0	0
	H	関	4	佐久長聖	1	0	0
2	⑥	森田智	3	霞ヶ浦	4	1	0
3	⑨	河原木	3	横浜	4	0	0
4	(D)	中野	4	明大中野	3	1	0
5	③	揚野	2	二松學舎大附	3	0	0
6	⑤	手塚	2	中央学院	2	0	0
7	④	奥村	4	桐陽	1	1	0
8	②	田島大	4	星槎国際湘南	1	0	0
	H	森田拓	2	真颯館	1	0	0
	2	福田	1	市立岐阜商	0	0	0
9	⑦	稲村	2	健大高崎	3	0	0
		合　計			26	3	0

	氏名	学年	高校名	投球回	打者数	被安打	自責
●	大坪	1	土浦湖北	5	22	4	0
	杉田	3	駿台甲府	2	9	2	1
	森田南	4	日大山形	1	4	0	0
	合　計			8	35	6	1

〔日体大〕

打順	位置	氏名	学年	高校名	打数	安打	打点
1	⑥	松浦	2	富島	4	1	0
2	⑧	中妻	2	常総学院	2	0	0
3	(D)	堀口	4	日大藤沢	2	0	0
	HD	添田	4	作新学院	1	1	0
4	⑦3	猪原	4	大冠	4	0	0
5	⑤	小儀	3	霞ヶ浦	2	0	0
	R	宮川	3	奈良大附	0	0	0
	5	石井幸	4	愛工大名電	0	0	0
6	④	中島優	2	佐賀商	3	2	0
7	⑨	南	1	花咲徳栄	4	2	1
8	②	打田	3	宇部鴻城	3	0	0
9	③	竹田	3	熊本城北	2	0	0
	H7	本間	2	東海大相模	1	0	0
		合　計			28	6	1

	氏名	学年	高校名	投球回	打者数	被安打	自責
○	矢澤	3	藤嶺学園藤沢	9	30	3	0
	合　計			9	30	3	0

【２回戦】

武蔵大学　3 － 3　日本体育大学

● 2021 年 10 月 10 日（日）浦安市運動公園野球場　試合開始 14:56　終了 17:54 / 2 時間 58 分

武蔵大	0	0	0	0	1	1	0	0	1	3
日体大	0	1	1	0	0	1	0	0	0	3

◇二塁打：林田（武）

〈審判　Ｃ：滝沢　Ⅰ：山口　Ⅱ：伊藤勝　Ⅲ：土橋〉

▶守りでミス犯し、１点差守れず引き分けに

痛恨！　勝てた試合といえよう。安打は少ないが、与四死球が合わせて１４個を数える大味なゲームだった。

六回一死から四球の走者を一ゴロエラー、捕逸で生還され２－２と追いつかれる。直後、９番の高橋健が死球出塁。中島の三ゴロが失策を誘い、二盗に成功し一死二、三塁とし、２番に入った松浦の投前スクイズで勝ち越しに成功する。

１点リードで迎えた最終回。勝本を継いだ恩田は七、八回は３人ずつで片づけていたが、勝ち星がちらついたのか、緊張しすぎて４、５番にボール球をつづけ、連続して歩かせる。一、二塁。６番の投前バントをやや取り損ね、あわてて三塁へ送球。だが、大きくそれ、その間に二塁走者に同点のホームを踏まれる。

なおも一、二塁。恩田は７番のバントを三塁で封殺した。このあと暴投を犯し、さらに四球を与えて二死満塁のピンチを招く。しかし、後続を辛くも一直と二ゴロで打ち取り、２時間５８分の長い試合を連盟規定により、惜しくも引き分けた。６イニングを３安打２失点の勝本に先発のメドが立ち始めた。

〔武蔵大〕

打順	位置	氏名	学年	高校名	打数	安打	打点
1	④	中島	3	前橋商	5	0	0
	4	横田	2	山村学園	0	0	0
2	⑥36	大河原	3	東農大二	4	0	0
3	(D)	岩谷	4	秋田商	3	1	0
4	⑨	松下	3	佼成学園	3	0	0
5	⑤	林田	3	利府	3	1	0
6	③	西牧	3	聖光学院	3	1	0
	6	片山	2	聖光学院	0	0	0
	H8	斉藤	3	日大鶴ケ丘	1	0	0
7	⑧	島田一	3	東亜学園	3	0	0
	3	前田颯	4	仙台育英学園	0	0	0
8	②	鹿倉	4	東海大菅生	2	0	0
	H	村上健	1	仙台育英学園	1	0	0
	2	黒川	4	川越東	0	0	0
	H	松本京	1	仙台育英学園	1	0	0
	2	猪股将	2	仙台育英学園	0	0	0
9	⑦	茂木	1	星槎国際湘南	2	0	1
		合　計			31	3	1

氏名	学年	高校名	投球回	打者数	被安打	自責
松崎	1	聖徳学園	2 1/3	14	3	2
田中	2	日大二	3 2/3	16	2	0
山内	4	東海大菅生	3	11	2	0
合　計			2 1/3	14	3	2

〔日体大〕

打順	位置	氏名	学年	高校名	打数	安打	打点
1	⑧	中妻	2	常総学院	4	1	0
2	⑥	松浦	2	富島	3	0	1
3	(D)	堀口	4	日大藤沢	2	0	0
	RD	古滝	1	健大高崎	0	0	0
	HD	細田	4	木更津総合	1	1	0
	RD	南	1	花咲徳栄	0	0	0
4	③	猪原	4	大冠	4	3	1
5	⑨	矢澤	3	藤嶺学園藤沢	3	0	0
6	⑦	本間	2	東海大相模	4	2	0
7	⑤	飯田	1	常総学院	2	0	1
	5	石井幸	4	愛工大名電	1	0	0
8	④	中島優	2	佐賀商	4	0	0
9	②	高橋建	2	桐光学園	3	0	0
		合　計			31	7	3

氏名	学年	高校名	投球回	打者数	被安打	自責
勝本	3	明石商	6	24	3	1
恩田	3	前橋育英	3	13	0	0
合　計			9	37	3	1

日本体育大学　6 － 0　武蔵大学

【１回戦】

● 2021 年 10 月 9 日（土）浦安市運動公園野球場　試合開始 08:53　終了 10:54 / 2 時間 1 分

日体大	1	0	0	0	0	3	1	1	0	6
武蔵大	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

◇二塁打：本間（日）

〈審判　Ｃ：河井　Ⅰ：福田　Ⅱ：佐々木　Ⅲ：宇佐美〉

▶わずか１安打矢澤、１０３球で鮮やか完封勝ち、猪原が先制犠飛

日体大の投打がかっちり噛み合った。いきなりトップの松浦が鮮やかに右前打を放ち、２番中妻は技ありのバント安打。中島がバントで送ると、すかさず４番の猪原が右へ先制犠飛を寄う。見事な先制攻撃だった。

中妻がバント安打で出塁した六回には、中島のバントで送られる。猪原が四球で歩くと、細田が中前へ適時打。さらに本間の右前打、右翼手の返球ミスなどで計３得点し、山内を引き摺り下ろした。つづく七回には、中前打の中妻が二盗に成功すると、猪原が中前へ適時打を放った。八回にも本間の右越え二塁打を足がかりに添田のーゴロで６点目を挙げた。

投手に専念の矢澤。立ち上がり３人であっさり片づけると、以後も小気味の良いピッチングで３人ずつ料理。五回一死後、１４人目に右前に初安打を許す。六、八回に１個ずつ四球を与えるも二塁を踏ませず、奪三振９、１０３球で自身３度目の完封勝利を成し遂げた。

〔日体大〕

打順	位置	氏名	学年	高校名	打数	安打	打点
1	⑥	松浦	2	富島	5	2	0
2	⑧	中妻	2	常総学院	5	3	0
3	④	中島優	2	佐賀商	3	0	0
4	③	猪原	4	大冠	3	1	2
	3	石井幸	4	愛工大名電	0	0	0
5	(D)	細田	4	木更津総合	4	2	1
6	⑦	本間	2	東海大相模	4	2	0
7	⑨	南	1	花咲徳栄	3	1	0
8	⑤	添田	4	作新学院	4	1	2
	5	小儀	3	霞ヶ浦	0	0	0
9	②	高橋建	2	桐光学園	4	1	0
		合　計			35	13	5

氏名	学年	高校名	投球回	打者数	被安打	自責
○ 矢澤	3	藤嶺学園藤沢	9	29	1	0
合　計			9	29	1	0

〔武蔵大〕

打順	位置	氏名	学年	高校名	打数	安打	打点
1	④	中島	3	前橋商	4	0	0
2	⑧7	茂木	1	星槎国際湘南	4	0	0
3	⑦	岩谷	4	秋田商	3	0	0
	8	島田一	3	東亜学園	0	0	0
4	⑨	松下	3	佼成学園	3	0	0
5	⑤	林田	3	利府	3	1	0
6	(D)	村上達	3	日大藤沢	2	0	0
	HD	前田颯	4	仙台育英学園	1	0	0
7	③	西牧	3	聖光学院	2	0	0
8	②	黒川	4	川越東	2	0	0
	2	猪股将	2	仙台育英学園	1	0	0
9	⑥	片山	2	聖光学院	2	0	0
		合　計			27	1	0

氏名	学年	高校名	投球回	打者数	被安打	自責
● 山内	4	東海大菅生	6	27	8	2
伊藤翼	3	花巻東	2	10	5	2
鈴木啓	2	桐蔭学園	1	3	0	0
合　計			9	40	13	4

日本体育大学 3 － 4 東海大学

【2回戦】

● 2021年10月23日（土）バッティングパレス相石スタジアムひらつか　試合開始 16:24　終了 19:22 / 2時間58分

日体大	1	0	0	1	0	1	0	0	0	3
東海大	0	0	0	2	1	0	1	0	×	4

◇三塁打：小玉（東）

二塁打：小儀（日）、打田（日）、黒澤昂（東）、小玉（東）

〈審判　C：佐々木→伊藤大　Ⅰ：滝沢　Ⅱ：川上　Ⅲ：大庭〉

▶粘り切れずに連敗し４勝止まり、２位浮上ならず。

投手陣が制球を乱し、痛打されて勝ち越しを許した。３－３で迎えた七回、２番手の勝本は一死後、３番に中越えへ大きな三塁打を奪われる。４番に四球を与えたあと、次打者にカウント３－２から中犠飛を奪われ、決勝点を献上した。思い通りにストライクが取れず、苦しまぎれの投球ぶり。いいように狙い打たれ、決勝犠飛を奪われた。

矢澤の投球も本調子ではないと、攻撃のリズムは作りにくい。相手のミスに乗じて２点を先取するも、四回無死、小玉の左二塁打を足がかりに四球、安打で満塁とされ、６、７番にストライクが入らず。あっけなく連続押し出し四球。同点。つづく五回にも一死から２安打で二、三塁とされ、５番に中前へ適時打され、勝ち越された。

代打飯田の左前適時打で３－３と追いついたあとの七回、２番手の勝本が一死後、三塁打と四球、盗塁で二、三塁と攻め込まれ、５番に中犠飛を奪われて決勝点を献上した。

矢澤、勝本といい、速球でストライクが取れないと、捕手はすぐにサインを変化球に変えてしまうなど、強気の攻めが見受けられない。積極的にストライクが取れれば、その直球を続け、打者の裏をかくとか、バッテリーは心理面でも工夫すべきではないか。変化球に頼りすぎが気になった。

〔東海大〕

打順	位置	氏名	学年	高校名	打数	安打	打点
1	④	鯰井	4	東海大市原望洋	3	0	0
	H4	河野大	4	東海大熊本星翔	1	0	0
2	⑨	齋藤健	4	桐光学園	2	1	0
3	③	小玉	4	東海大菅生	4	2	0
4	②	亀田	4	東海大甲府	2	1	0
5	⑤	吉田元	3	東海大相模	2	1	0
	R5	門馬	4	東海大相模	1	1	2
6	⑧	竹内	4	明石商	2	0	1
	H8	酒井	4	流経大柏	1	0	0
7	⑦	高田誠	4	広陵	2	0	1
	7	金城	2	東海大相模	1	0	0
8	(D)	黒澤昂	4	東海大相模	2	1	0
	RD	政吉	3	済美	0	0	0
	HD	半情	4	秀岳館	1	0	0
9	⑥	樫見	3	金沢	2	0	0
	H	眞城	4	東海大静岡翔洋	1	0	0
	6	成瀬	2	東海大菅生	0	0	0
		合　計			27	7	4

氏名	学年	高校名	投球回	打者数	被安打	自責
安里	4	東海大相模	4	19	4	0
植田	2	東邦	2 1/3	11	3	1
○ 大久保	2	東海大福岡	1	6	1	0
中尾	3	東海大菅生	1	3	0	0
高木	4	聖光学院	2/3	2	0	0
		合　計	4	19	4	0

〔日体大〕

打順	位置	氏名	学年	高校名	打数	安打	打点
1	⑥	松浦	2	富島	3	1	0
2	⑦	本間	2	東海大相模	3	0	1
3	⑧	中妻	2	常総学院	4	0	0
4	③	猪原	4	大冠	5	1	0
5	(D)	堀口	4	日大藤沢	3	0	1
6	⑤	小儀	3	霞ヶ浦	2	2	0
7	④	中島優	2	佐賀商	3	0	0
8	⑨	南	1	花咲徳栄	4	1	0
9	②	高橋建	2	桐光学園	2	1	0
	H	飯田	1	常総学院	1	1	1
	2	打田	3	宇部鴻城	1	1	0
	R	小滝	1	健大高崎	0	0	0
	2	櫻井仁	2	愛産大三河	0	0	0
		合　計			31	8	3

氏名	学年	高校名	投球回	打者数	被安打	自責
矢澤	3	藤嶺学園藤沢	5	24	6	3
● 勝本	3	明石商	3	12	1	1
		合　計	8	36	7	4

東海大学 2 － 0 日本体育大学

【1回戦】

● 2021年10月16日（土）浦安市運動野球公園球場　試合開始 12:17　終了 14:19 / 2時間02分

東海大	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
日体大	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

◇本塁打：齋藤健（東）

〈審判　C：串田　Ⅰ：滝沢　Ⅱ：佐々木　Ⅲ：福田〉

▶先制に失敗し「打倒・東海大」成らず、４季ぶりのＶ許す

「先手必勝、守り勝つ」――。王座のかかる直接対決。逆転制覇を果たすため日体大は打撃好調な２年生の本間と中妻を初めて１、３番に起用。その本間が高杉の初球を捉えて右前へ快打する。松浦がしっかり送り、中妻も死球で出塁すると、猪原が２ボール後の３球目を鮮やかに左前打に放つ。一気に意気はあがる。願ってもない、いきなり満塁のお膳立て。５番に据えた指名打者の細田が甘いストレートを見逃して３球目を平凡なーゴロ。つづく６番に抜擢の１年生南も１－２後の３球目をあえなく三ゴロに倒れ、絶好の先制機を逃した。

４年生右腕の高杉。今春の２回戦に２番手として１イニング、無失点に抑えられていた。その高杉に「直球を狙われている。チェンジアップには左打者のタイミングが合っていない」と悟られ、二回以降、その球を主体とする配球に切り替えられる。

六回には中妻がチーム４本目の安打を放ち、一死後、代打の堀口死球で一、二塁と攻め立てた。だが、代打渡美が空振り三振、添田左飛。その後も続投する高杉を捉え切れず、八回には代打稲本遊飛のあと、中妻と猪原の連打で一、二塁としたが、細田が遊ゴロ併殺に。

結局、６安打散発。高杉に完封で今季の初勝利を許し、意地を見せられず。「１勝すれば４季ぶり７４度目の優勝。１点を競い合う厳しい闘いになろう。内角を有効に使い、先頭打者を出すな」と就任２季目の井尻監督に指示されたバッテリーに、してやられた感じだった。

この大事なゲームに投手専念で臨んだ矢澤。今春エース格に昇格して開幕の東海大との第１戦。わずか被安打３だったものの、２失点し逆転されて敗戦投手に。雪辱に燃えていた。

味方打線が高杉を攻略できず、迎えた四回、２番に抜擢の４年生斎藤に初安打（二塁打）を奪われる。その斎藤を三塁に背負い、二死後、巨人の育成ドラフト３位指名の亀田に「初球から思い切って振っていく」と的を張られる。初球、ストレートを右前へ弾かれ、均衡を破られた。つづく五回にも斎藤に右前へ適時打を打たれた。９回、１１８球を投げて被安打７、与四死球２、奪三振６で２失点。またしても勝利の女神に見放された。

〔東海大〕

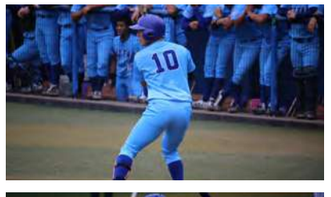
打順	位置	氏名	学年	高校名	打数	安打	打点
1	④	鯰井	4	東海大市原望洋	4	0	0
2	⑨	齋藤健	4	桐光学園	4	3	1
	R9	金城	2	東海大相模	0	0	0
3	③	小玉	4	東海大菅生	4	0	0
4	⑤	吉田元	3	東海大相模	3	0	0
	5	門馬	4	東海大相模	1	0	0
5	②	亀田	4	東海大甲府	3	1	1
6	⑧	竹内	4	明石商	4	1	0
7	(D)	石川	2	東海大大阪仰星	1	0	0
	HD	鵜沼	1	東海大相模	2	1	0
	HD	黒澤昂	4	東海大相模	1	0	0
8	⑦	高田誠	4	広陵	2	0	0
	7	政吉	3	済美	0	0	0
9	⑥	樫見	3	金沢	2	1	0
		合　計			31	7	2

氏名	学年	高校名	投球回	打者数	被安打	自責
○ 高杉	4	東海大札幌	9	35	6	0
		合　計	9	35	6	0

〔日体大〕

打順	位置	氏名	学年	高校名	打数	安打	打点
1	⑦	本間	2	東海大相模	4	1	0
2	⑥	松浦	2	富島	2	0	0
	H	橋本篤	4	敦賀気比	1	0	0
	6	石井幸	4	愛工大名電	0	0	0
3	⑧	中妻	2	常総学院	2	2	0
4	③	猪原	4	大冠	4	2	0
5	(D)	細田	4	木更津総合	2	0	0
	HD	堀口	4	日大藤沢	1	0	0
6	⑨	南	1	花咲徳栄	2	0	0
	H4	渥美	4	日本大学	1	0	0
	H	小儀	3	霞ヶ浦	0	0	0
	R	宮川	3	奈良大附	0	0	0
7	⑤	添田	4	作新学院	4	1	0
8	②	高橋建	2	桐光学園	2	0	0
	H	稲本	3	福岡大大濠	1	0	0
	2	打田	3	宇部鴻城	1	0	0
9	④9	中島優	2	佐賀商	3	0	0
		合　計			30	6	0

氏名	学年	高校名	投球回	打者数	被安打	自責
● 矢澤	3	藤嶺学園藤沢	9	34	7	2
		合　計	9	34	7	2



SBBL 秋季リーグ戦 成績

勝敗表

順位	大学名	東海大	武蔵大	日体大	帝京大	桜美林大	筑波大	試合	勝	負	分	勝点	※
優勝	東海大	－	○4−3 ○4−1	○2−0 ○4−3	●0−4 ○3−0	△4−4 △2−2	△1−1 ○3−0	10	6	1	3	7.5	－
2	武蔵大	●3−4 ●1−4	－	●0−6 △3−3	○4−2 ●3−5	○7−6 ○5−0	△0−0 ○5−2	10	4	4	2	5	－
3	日体大	●0−2 ●3−4	○6−0 △3−3	－	○4−0 ○3−1	○2−0 ●1−2x	●3−5 ●5−6	10	4	5	1	4.5	7
4	帝京大	○4−0 ●0−3	●2−4 ○5−3	●0−4 ●1−3	－	△4−4 ○4−0	●1−2 ○9−2	10	4	5	1	4.5	5
5	桜美大	△4−4 △2−2	●6−7 ●0−5	●0−2 ○2x−1	△4−4 ●0−4	－	○4−1 ○3−0	10	3	4	3	4.5	−5
6	筑波大	△1−1 ●0−3	△0−0 ●2−5	○5−3 ○6−5	○2−1 ●2−9	●1−4 ●0−3	－	10	3	5	2	4	－

※得失点差

表彰選手

表彰		氏名	大学	学年	回数
最優秀投手		安里　海	東海大	4	初
首位打者		中妻　翔	日体大	2	初
ベストナイン	投手	矢澤　宏太	日体大	3	初
	捕手	亀田　啓太	東海大	4	2
	一塁手	小玉　佳吾	東海大	4	2
	二塁手	鯨井　祥敬	東海	4	初
	三塁手	柴田　海斗	帝京大	3	初
	遊撃手	森田　智貴	桜美林大	3	2
	外野手	中妻　翔	日体大	2	初
	外野手	岩谷　剛志	武蔵大	4	初
	外野手	光本　将吾	帝京大	3	2
	指名打者	中野　航太	桜美林大	4	2

投手 １０傑

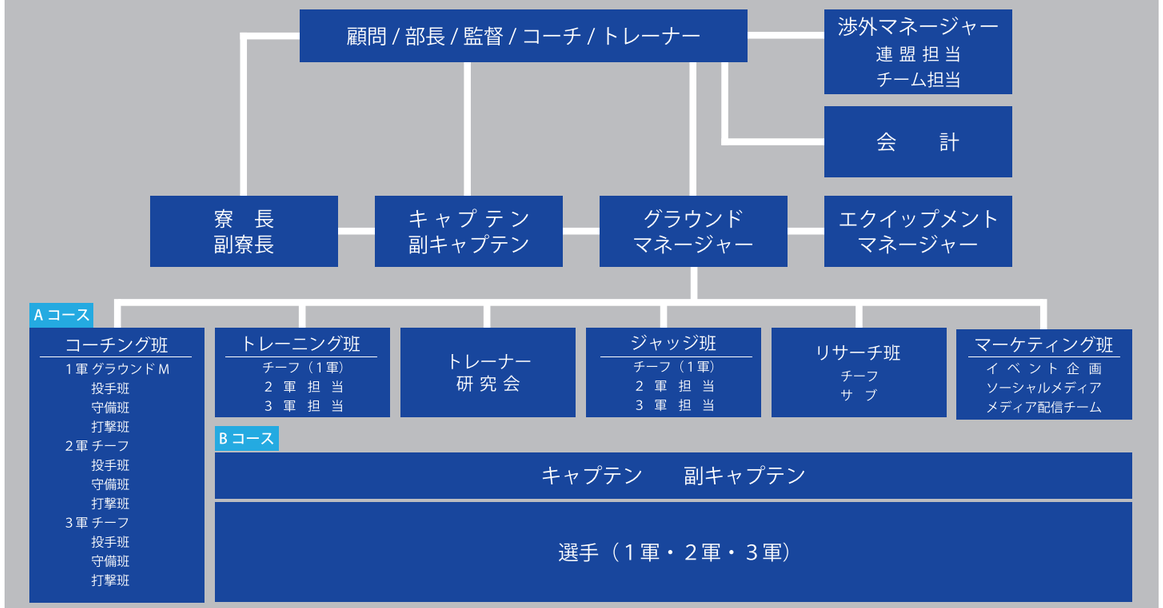
順位	氏名	大学	試合	勝数	負数	回数	自責点	防御率
1	安里　海	東海大	5	3	0	36	2	0.50
2	勝本　樹	日体大	5	0	1	20	2	0.90
3	鈴木　翔也	帝京大	5	2	1	30	4	1.20
4	吉本　孝祐	筑波大	8	2	1	28 2/3	4	1.26
5	矢澤　宏太	日体大	7	3	2	54	12	2.00
6	高杉　勝太郎	東海大	6	1	1	35 2/3	8	2.02
7	多間　隼介	桜美林大	8	2	1	50 1/3	13	2.32
8	山内　大輔	武蔵大	8	1	2	46 1/3	13	2.53
9	西舘　洸希	筑波大	5	0	2	23 1/3	9	3.47

打撃 １０傑

順位	氏名	大学	試合	打席	打数	安打	打点	本塁打	打率
1	中妻　翔	日体大	10	46	36	15	1	0	0.417
2	中野　航太	桜美林大	10	33	29	11	5	2	0.379
3	岩谷　剛志	武蔵大	10	43	40	13	3	0	0.325
4	鯨井　祥敬	東海大	10	35	33	10	2	1	0.303
5	柴田　海斗	帝京大	10	35	30	9	4	0	0.300
6	小玉　佳吾	東海大	10	41	37	11	2	1	0.297
7	光本　将吾	帝京大	10	45	42	12	4	1	0.286
7	南　大輔	日体大	10	32	28	8	1	1	0.286
9	猪原　隆雅	日体大	10	43	39	11	6	0	0.282
9	岡野　龍太	帝京大	10	43	39	11	6	1	0.282
9	清水　大海	筑波大	10	40	39	11	5	0	0.282

日本体育大学硬式野球部 組織図

ORGANIZATION CHART



第 48 回 明治神宮野球大会　優勝

（2017 年 11 月 15 日）

TAIIKUKAI INNOVATION

体育会イノベーション

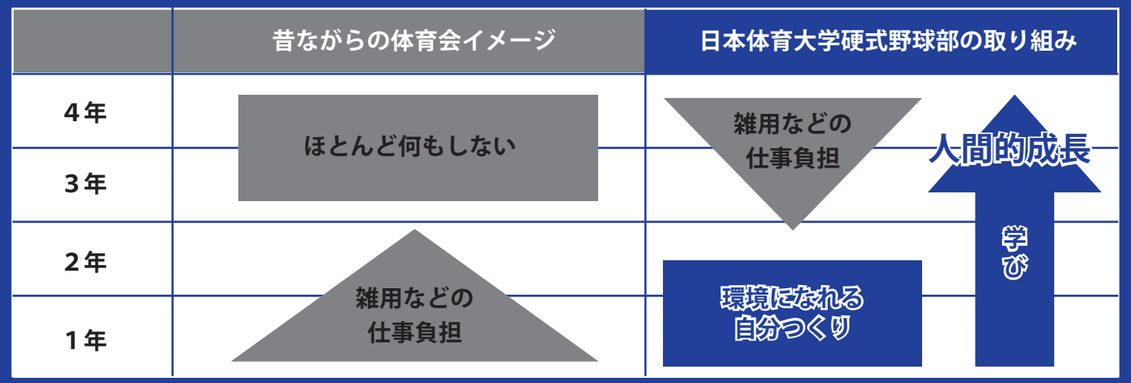
日本体育大学硬式野球部が取り組む「体育会イノベーション」とは

昔ながらの体育会の学年の上下関係は、1年生が部や先輩の雑用を行うなど下級生の負担が大きい。上級生が神のように威張り、下級生はチームや寮の雑用や先輩への気遣いで、勉強や野球どころではなくなってしまう。

我々、日本体育大学野球部は、悪しき体育会の伝統を排除し、上級生が率先してチームや寮の雑用を行い、後輩の面倒をみるという「体育会イノベーション」を実践する。

1年生は、高校を卒業し、大学に入学すると、寮生活や大学生活、そして大学野球という沢山の新しい環境に適応していかなければならない。上級生がチームや寮の雑用を行い、負担を軽減することによって1年生は余裕のある生活を送ることができ、大学生活、野球においても力を発揮できるようになる。

1年生は上級生のそういった姿を見て学び、上級生を尊敬し、自分が上級生になった時に後輩の面倒をみる。そして「良き体育会の伝統」を継承していく。



ORGANIZATION

ジャッジ班

4年 佐山 祐輔
（宇都宮南高校 出身）

私たちジャッチ班は、オープン戦や紅白戦、2部のリーグ戦などで、選手が気持ちよく試合を進めていくことができるように、常に公正なジャッチを心がけています。審判は試合において重要なポジションであるため、選手と同じ気持ちで一球一球に集中して大きな声でコールをし、自信を持って判断します。試合後などに選手から感謝の気持ちを述べられることが、私たちにとっては嬉しくやりがいがあるので、それをモチベーションとして正しいジャッチができるように、ジャッチ班の中でも注意事項を決めたり話し合いを重ねたりしながら取り組んでいます。試合を重ねるごとに審判も上達していくことが実感できるので、完璧なジャッチができるように、これからも精一杯力を注いでいきたいと思います。

リサーチ班

4年 川越 匠人
（高鍋高校 出身）

リサーチでは、相手チームのデータを集め分析をすることや他自チームのデータを管理することが主な内容です。オープン戦では自チームの試合を撮影し、リーグ戦に向けてのデータを集めています。リーグ戦では1試合目から3試合目まで実際に試合会場に行ってデータを集め、資料を作成しています。野球を新しい目線で見ることができる環境のためこれまで自分では知ることのできなかった知識を得ることができます。業務内容が複雑な部分はありますが、それ以上に得ることのできる知識が沢山あることが魅力です。選手や首脳陣が必要とするデータを提供できるように行動していきます。

コーチング班

1軍

4年 西岡 秀太
（星陵高校 出身）

一軍チーフコーチはスタッフの方々とコミュニケーションをとり常に質の高い練習ができるように工夫を凝らしています。また全軍の学生コーチと連携をとり、全軍の活動を把握することで効率よく質の高い練習ができ、チーム全体のレベルアップに繋がっていると感じています。私が一軍チーフコーチとして心掛けていることとしては、チームの為にやったことが自分の為、自分の為にやったことがチームの為になることです。チームの目標が「日本一」と非常に大きなものではありますが、チーム全員が高い志を持ち、目標が達成できるように最高の環境を学生コーチ全員で力を合わせて作っていきたいと思います。「絶対日本一」。

2軍

4年 野口 厚太
（東明館高校 出身）

二軍チーフの仕事は練習メニューを考えたり、選手が一軍に上がって活躍できるようにサポートを行うことです。チームで日本一という目標を掲げており、二軍から底上げすることによって一軍の選手も危機感を感じもっと活躍しないといけないという思いになると思うので一軍に負けない雰囲気で日々の練習に取り組んでいます。選手とのコミュニケーションも大切だと考えているので、グラウンドだけでなく寮でも積極的に選手とコミュニケーションをとるように心がけています。一軍に比べると練習をできる場所が限られていますが、一軍で活躍したい、日本一に貢献したいという選手が多く必死に練習にくらいついています。これからの選手の活躍がとても楽しみです。

3軍

4年 山田 澪史
（北海道科学大学高校 出身）

3軍チーフコーチの役割は主に3軍の練習の統率です。このような役割の中で、野球の技術より選手とのコミュニケーションをとることがチーフコーチとしての大きな役割だと思っています。チームの目標である日本一、優れた指導者の輩出を達成するには1、2軍だけではなく特に3軍の底上げが大事だと思っています。そのために普段の練習の態度や、3軍全体の雰囲気などチームの結果に繋がるよう全体で作り上げています。3軍の選手から2軍、1軍に昇格し活躍できるように全身全力でサポートしていきます。

マーケティング班

【イベント企画】

4年 三木 彰智
（履正社高校 出身）

マーケティング班のイベント企画では、大学日本一を目指す中でまずはチームが一つになるためのイベントを考えています。現在チームは一軍から三軍で構成されている大所帯です。練習環境の関係で時間帯などをずらしているのであまり練習中は交流がありません。そこで私たちが主体となってイベントを企画し、チームの交流を深めようと考えています。また、今まであまりイベントなどが行われてこなかったので、これから先のマーケティング班の基盤を作っていけるようにしたいと考えています。そして日体大の強みであるグラウンド・ベンチ・スタンドが一体となり、日本一のチームになれるように活動していきたいと思います。

【ソーシャルメディア】

4年 吉川 幸輝
（高知西高校 出身）

ソーシャルメディア班は、弊部が所有するSNS(Facebook、Twitter、Instagram) を管理しています。
ソーシャルメディア班の役割として、①ファン層の拡大、②外部との架け橋、③チーム内でのモチベーション共有、があげられます。面と向かって話すのは少し恥ずかしい、感謝の気持ちや、現在の夢や目標など、彼等の内に秘めた想いを様々な切り口から発信し、皆様の元にお届け致します。また、それとは別に普段の練習風景や試合結果などを発信することにより、掲載選手に偏りがないよう心がけています。より彼等を身近に感じられる内容になっておりますので、お時間がありましたらご覧頂けると嬉しいです！

【メディア配信チーム】

3年 古城 和真
（七里ガ浜高校 出身）

メディア配信チームでは、試合や練習を日体大硬式野球部公式 YouTube チャンネル「NITTAI BASEBALL CHANNEL」で生配信を行います。遠方の保護者やファン等、試合を観に来ることができない方々に情報を伝えることが主な役割です。配信を通して少しでも多くの人の目に触れることで、選手のモチベーション向上や将来の選択肢にも影響すると考えます。また、入部を検討している高校生にとって、部内の雰囲気を知ることができるコンテンツになります。配信をする上で野球に関する知識を必要としないので、野球未経験の人でも部員を支える裏方としてチームに貢献することができます。

トレーニング班

4年 糸井 洸平
（東日本国際大昌平高校 出身）

学生ストレングスコーチは、主に私達学生コーチが独自なセミナーを終了後、それを選手に落とし込む組織として存在し、選手の競技力向上をメインに考え、学生のみならず多くの大学関係者の協力を得て結成したまだ2年目の組織集団になります。その中でチームの目標である日本一を掲げ日々技術練習に、トレーニングに、と両方に力を入れており、これまでのリーグ戦の反省としてあった、後半戦になるにつれ体力低下や怪我人の続出などで思う存分リーグ戦を戦い抜くことが困難なことが課題としてあり、それを打破すべく怪我に強い体づくりを取り組んできました。
チームスローガン日本一～ちゃんとやんねん～にあるようにも練習だけでなくトレーニングもそれぞれ個人差があるように全員が一律ではないため、こなすのではなく、一人一人考え自らが積極的に取り組み全員で強化し全員野球で日本一を奪いに行く為にこれからも奮起していきます。

会　計

4年 青木 来夢
（麻布大付属高校 出身）

会計は部活で唯一、保護者の方と直接関わることのできる役職です。会計マネージャーとして、金銭を正確に管理することは言うまでもありませんが、ただ管理するのではなく、保護者の方々に安心していただけるよう、明細や活動報告を同封するなど、保護者の方と弊部を繋ぐ存在になれるよう、日々何ができるのかを考え、活動しています。
また、これからもチームが安心して活動を行えるよう、管理方法をマニュアル化し、今後に残していきたいと思っています。弊部に関わる全ての方に、安心と感謝を届けることが私の役割です。会計をしているからこそ分かることを最大限に活かし、私にしかできないやり方で日体大野球部を支えていきたいと思います。

寮　長

4年 岡田 龍生
（履正社高校 出身）

寮長は、主に寮内の統括をしています。そして月に1度各部活の寮長と会議を行い、寮生が過ごしやすい環境作りをするために話し合いをしています。そして、寮父母さんとも連携して、より良い環境作りを常に心がけています。その他にも、毎朝の体操や夜の点呼を行っています。わたしが寮長をやっていて心掛けていることは、常に周りとコミュニケーションを取って意見を取り入れることです。そしてチームの目標である日本一のためには、野球だけうまくてもなれません。そのため集団行動の意識を高めるためにも寮生活というのは大事だと思うので、寮生活も疎かにしないようにこれからも責任を持ってリーダーシップを発揮していきます。

キャプテン

4年 打田 啓将
（宇部鴻城高校 出身）

私たちは日本一を目標に日々活動しています。その中で主将として大切にしていることは、仲間を目標に対して本気にさせることです。仲間が目指したくなるような、達成したくなるような目標を掲げそこに対しての勝ち筋を見出すことが主将であり、リーダーである私の役割だと考えています。そのため、日頃から日本一になるにはなにが必要なのかを考え、必要であることに関しては、徹底的に言うようにしています。「本気の情熱は必ず伝染する」これは私が大切にしている言葉で日本一に向け、チームの誰よりも情熱を持ち、取り組むことでそれが必ずチームに浸透すると信じて日々活動をしています。日体大野球部全員の力で日本一を掴みます。

エクイップメントマネージャー

4年 須藤 惇
（長野高校 出身）

エクイップメントでは、主にチームの備品や設備の管理をしています。そのような仕事の中で、用具管理・施設管理委員会と協力し、チームの練習環境を整え、環境からチームの土台を築くことがこの仕事の役割であると考えます。日本一のチームを目指す我々にとって、整った環境は、普段の練習やチームのモットーである人間形成において必須なものです。そのようなことから、今ある恵まれた施設・備品に感謝し、それらを維持しつつ、常に整った環境をチーム全体で作り上げています。また、一球で負けた昨年のリーグ戦の反省を踏まえ、細かな乱れを敏感に察知して整え、小さなことから大切にすることも常に頭に入れて取り組んでいます。私自身この役割に責任を持ち、心の整った環境・安全かつより良い練習のための備品管理を実践するために率先して行動していきます。

渉外マネージャー

【連盟担当】

4年 北内 真太
（上尾高校 出身）

連盟渉外マネージャーは、リーグ戦の運営や審判の方の対応などを主に行っています。リーグ戦が円滑に運営できるように、リーグ戦前から運営方法を考えたり、球場挨拶に行ったりと他にも様々な準備をしています。渉外マネージャーの特徴は外部の方と多く関わることだと思います。外部の方たちからは僕の行動が日本体育大学野球部の行動として見られます。チームの窓口として一つ一つの行動、言動に責任を持ち、日本体育大学野球部はしっかりしているチームだと思ってもらえるように意識して行動しています。「人間力野球」そして「日本一」にふさわしいマネージャーとして毎日を全力で活動していきます。

【チーム担当】

4年 倉科 奈桜
（飯山高校 出身）

チーム渉外マネージャーは、ユニフォームやグッズの管理を主に担当しており、その他連盟担当マネージャーと分担をしながら、チームの運営に尽力しています。
また私自身連盟マネージャーの女子チーフも務めており、リーグ戦の運営だけでなく、連盟のホームページ、SNSの運営等も行っています。連盟の仕事と並行してチームの仕事を円滑に進める為には、優先順位を決めて効率的に作業を行うことが大切であると考えます。また、私個人の連盟での評価が日体大野球部への評価にも繋がる為、チームがより良い印象を持ってもらえるように積極的な行動や丁寧な挨拶を心掛けています。
これからも日体大野球部が掲げる " 人間力野球 " を大切に、大学野球日本一を掴み取るこのチームに尽力していきます。

グラウンドマネージャー

4年 佐々木大夢
（金足農業高校 出身）

グラウンドマネージャーは、チーム運営とチームを統括する立場であると考えています。チーム運営では練習環境を整えることを1番大切にしています。具体的には練習がスムーズにいくかいかないか、指導者が求めていることと選手が求めていることを合致させることができるかできないかは GM 次第であると考えています。チームを統括するということはバラバラなチームを1つにする責任があります。目的である「人間力野球」、目標である「日本一」、スローガンである「ちゃんとやんねん」のもと、素晴らしいチーム、素晴らしい日体大を創りあげるために「浸透」させなければなりません。これだけは絶対に忘れるなということは妥協せずに毎日伝えていくことがチームを統括することに繋がると考えています。最後に GM とはチームのために毎日必死になって働くことが大切です。

トレーナー研究会

4年 佐藤 大将
（駒場学園高校出身）

トレーナーは、学友会トレーナー研究会に所属しており、私達は野球部に派遣されサポートを行っています。仕事内容は、練習や試合時に起きた怪我に対する対応、ウォーミングアップやランニングメニュー等を考え、選手に実施させるなど選手がよりベストな状態で試合や日々の練習に取り組むことができるようにサポートすること、パフォーマンスの向上に向けてコンディショニングを図ることなどを主に行っています。
大学日本一という目標に加えてチームのモットーの人間形成においてもチームの一員となりサポートを行うことを意識しており、日本一にふさわしいチームで日本一を取れるように選手サポートをしていきます。

健志台球場

室内練習場（地下）

トレーニング室

マネージャー
倉科 奈桜
体育学部 4年
長野県 / 飯山高校 出身

マネージャー
青木 来夢
体育学部 4年
神奈川県 / 麻布台附属高校 出身

② ベンチ（3塁側）

③ ブルペン（1塁側）

④ スコアボード

⑤ サブグラウンド

⑥ ファールゾーン（3塁側）

⑦ ブルペン（3塁側）

⑧ バッティングゲージ

⑨ トレーナーズルーム

⑩ スタンド

① 野球場 映像

マネージャー
佐藤 花梨
保健医療学部 3年
神奈川県 / 東海大相模高校 出身

マネージャー
越智 雅恵
児童スポーツ教育学 3年
茨城県 / 藤代高校 出身

NIPPON SPORT SCIENCE UNIVERSITY

保健医療学部校舎

2014年(平成26年)春に新設された保健医療学部の校舎。整復医療と救急医療に特化した設備で、学生はスポーツの専門性を備えた医療の担い手を目指します。

サッカー場

全面に人工芝を使用したサッカー専用ピッチ。500人を収容できる観客席も設けられた、本格的な競技用施設です。

第一体育館

最も多くの先輩たちが汗を流してきた伝統ある体育館です。柔道場も併設されています。

プール

屋外温水プールで、競泳・水球用の50mと、水深5mの飛込み専用プールがあります。ダイビングの事前実習時にも使用されます。

ゴルフ教場

2017年4月にリニューアルしたゴルフ練習場。14打席が設置され、パター練習場も併設しています。

スポーツトレーニングセンター

多くの人が待たずに一度で利用できるよう、豊富な種類のマシンを数多く設置しています。

1402教室

扇形に広がる階段型の教室。授業のほか、講演会や各種イベントなど、さまざまな用途で使用されています。

ラグビー場

観客席や更衣室・シャワー室が設置されたクラブハウスもあります。

アーチェリー場

公式戦にも対応した90mの射場です。防音・防風・防雨対策が施され、天候にかかわらず、いつでも練習が可能です。

第三体育館

2面に区切られた設計で、片面の壁は1面に鏡が張られ、ダンスやエアロビクスの授業で使用しています。

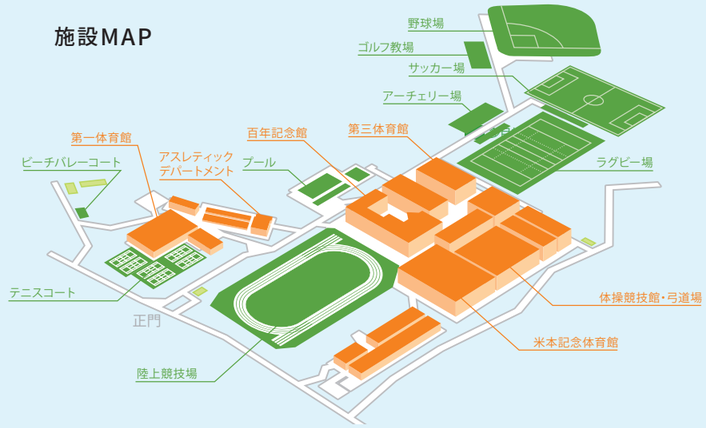
YOKOHAMA KENSHIDAI CAMPUS

スポーツ文化創造の場

教室や健康管理センター、スポーツトレーニングセンターなどが併設された百年記念館を中心に、各種スポーツ施設を完備。図書館や合宿所なども用意され、学生は安心して学修、クラブ活動に打ち込めます。

ドローン撮影による
キャンパス紹介ムービーです。
ぜひご覧ください。

施設MAP



施設概要

住居表示	神奈川県横浜市青葉区鴨志田町1221-1
敷地面積	172,341.89m²
建築面積	12棟(体育館など含む)
延床面積	21,793.18m²
階　　数	56,582.07m²
構造種別	陸上競技場、プール棟(50m、飛込)、野球場、サッカー場、ラグビー場、テニスコート、ゴルフ練習場、アーチェリー場

付帯施設

■みずほ銀行ATM　■学生サポートデスク
■店舗(デイリーストア、三省堂、ササキスポーツ)

米本記念体育館(第Ⅰアリーナ)

2階部分は可動式の観覧席で、1,500人を収容可能。普段は収納され、走路として使用されています。米本記念体育館には第Ⅰから第Ⅲまでの3つのアリーナを併設。

米本記念体育館(第Ⅱアリーナ)

第Ⅱアリーナの床面は、使用目的によって硬さを調整できる特殊な構造になっています。体操の授業などで使用され、体操部が活動しています。

体操競技館

体操競技専用の体育館。大学としては全国レベルの充実した施設で、公式試合に使用されるものと同様の器具が

陸上競技場

国内大会が開催できる公認施設。全面にブルートラックを採用し、全天候型の400mトラックやナイター設備も完備し

米本記念体育館(第Ⅲアリーナ)

半面はレスリング場として専用のマットが敷いてあり、もう半面は多目的スペースとして使用されています。

日本体育大学

健志台合宿寮

KENSHIDAIGASSYUKURYO

横浜・健志台キャンパスに隣接　管理人が常駐　３食セレクトセット様式

硬式野球部だけではなく、運動部の部員が共同生活をしている専用寮です。横浜・健志台キャンパス内にあり、各クラブの部長、監督、コーチが競技力向上のために指導に当たっています。

■ 健志台合宿寮外観

■ 食堂

■ シャワールーム、浴槽

■ 寮納費内訳（2020 年度参考）

最大定員　600 名　　部屋数　150 室

納入区分	入寮費	寮費	食費	合計	納入期日
初回分　4・5月分	¥20,000	¥20,000	¥116,986	¥156,986	4/24
2回分　6・7月分	-	¥20,000	¥118,035	¥138,035	5/27
3回分　8・9月分	-	¥20,000	¥116,100	¥136,100	7/22

納入区分	入寮費	寮費	食費	合計	納入期日
4回分　10・11月分	-	¥20,000	¥118,035	¥138,035	9/25
5回分　12・1月分	-	¥20,000	¥80,679	¥100,679	11/27
6回分　2・3月分	-	¥20,000	¥83,663	¥103,663	12/25
	¥20,000	¥120,000	¥633,498	¥773,498	

【食費】　1 日 3 食 1,935 円（朝食 458 円・昼食 591 円・夕食 886 円）　給食期間は 4 月 1 日夕食～翌年 3 月 16 日朝食までです。ただし、年末、年始は食事がない日があります。

マネージャー
北内 真太
スポーツマネジメント学部 ４年
埼玉県 / 上尾高校 出身

健志台合宿寮は大学キャンパス内にあり野球場にも近いため、一人暮らしや他の寮よりも時間を有効活用でき、有意義に生活することができます。

食事は丼類、プレート、麺類から自分の好きなものを選択することができ、栄養バランスも考えられた中でお腹いっぱい食べることができるのでとても助かっています。

また、一番の魅力は仲間と過ごすことにあると思います。１日の練習が終わって友達と一緒に食事、お風呂に行き、ゆっくりしたり、練習したり、遊んだりと寮生活ならではのコミュニケーションがたくさんとれます。

仲間と助け合いながら大学生活を行えるためとても充実しています。４年間ずっと一緒に過ごす仲間、経験は大きな財産になるはずです。

生活時間例	
起床	7：00
朝食	7：30～8：30
授業	9：00～12：00
昼食	12：10～13：00
授業	13：00～16：10
練習	16：30～20：00
夕食	20：00～21：00
入浴・洗濯など	21：00～22：00
点呼	22：00
消灯	23：00

キャンパス内にある健志台合宿寮に約 140 名の部員が規則正しい生活を送っています。教室まで 5 分、グラウンドまで 10 分。授業と練習への移動に時間をとられることなく効率よく時間を使うことができます。3 食とも栄養士が献立を作成し、栄養バランスやカロリーもわかるようにしています。主菜は 2 品から選べ、副菜や飲み物はお代わり自由。練習期や試合期など時期によって推奨するメニューを管理栄養士によって指示されます。体づくりのため、補色（おにぎり 200ｇなど）を毎日の練習で準備します。

健志台合宿寮のある1日の食事

食事メニューは、栄養士によって考えられています。

NITTAIDAI BASEBALL CLUB NEWS

【NITTAIDAI BASEBALL CHANNEL】

【NITTAIDAI BASEBALL HOMEPAGE】

日体大野球部の活動状況などの最新情報は、野球部の HP を通じて最新の発信をしております。また、YouTube を利用して公式戦だけではなく、オープン戦などもライブ中継を行っております。その他の活動状況も YouTube にて紹介していますので以下よりチャンネル登録してください。

NITTAIDAI
BASEBALL CLUB

ホームページ

YouTube

プロ・社会人野球で活躍する OB

プロ野球

卒業年度	氏名	所属	ポジション
S53年度卒	中田　宗男	中日ドラゴンズ	スカウト
S58年度卒	白武　佳久	広島東洋カープ	スカウト
H2年度卒	齋藤　充弘	東京ヤクルトスワローズ	スタッフ
H7年度卒	百瀬　喜与志	ボストンレッドソックス	コーチ
H12年度卒	佐藤　充	中日ドラゴンズ	スタッフ
H14年度卒	小林　宏平	東京ヤクルトスワローズ	トレーナー
H19年度卒	藤本　康人	福岡ソフトバンクホークス	トレーナー
	松浦　直幸	東京ヤクルトスワローズ	トレーナー
H21年度卒	鷲岡　賢二郎	横浜DeNAベイスターズ	コーチ
H26年度卒	中村　道大郎	神奈川フューチャードリームス	内野手
H27年度卒	大貫　晋一	横浜DeNAベイスターズ	投手
H30年度卒	東妻　勇輔	千葉ロッテマリーンズ	投手
	松本　航	埼玉西武ライオンズ	投手
R元年度卒	山田　雄照	美唄ブラックダイヤモンズ	投手
	吉田　大喜	東京ヤクルトスワローズ	投手
	高山　凌	熊本サラマンダーズ	内野手
R2年度卒	森　博人	中日ドラゴンズ	投手

社会人野球

卒業年度	氏名	所属	ポジション
H5年度卒	竹間　容祐	日本生命	コーチ
H20年度卒	津野　祐貴	三菱重工West	コーチ
H24年度卒	高畠　裕平	日本製鉄鹿島	外野手
H25年度卒	櫻井　義之介	東芝	投手
	平野　智基	三菱重工East	捕手
	小椚　卓也	三菱重工East	外野手
H26年度卒	吉岡　大悟	Honda熊本	マネージャー
	樋口　宇大	日立製作所	投手
	島田　直人	日本製鉄鹿島	マネージャー
H27年度卒	下川原　駿	JR千葉	投手
	若林　俊充	東邦ガス	内野手
	川満　昂弥	沖縄電力	内野手
	藤澤　直樹	伯和ビクトリーズ	内野手
	野中　涼真	九州三菱自動車	内野手
H29年度卒	西澤　大	日立製作所	投手
	坂本 耕哉	光シーガルズ	内野手
	知念 佑哉	沖縄電力	外野手
H30年度卒	船山　貴大	日本生命	内野手
	森岡　竜也	オールフロンティア	外野手
	中村　誠	日本製鉄かずさマジック	外野手
R元年度卒	北山　比呂	東芝	投手
	柴田　大地	日本通運	投手
	馬場　龍星	東京ガス	捕手
	上西　嵐満	JFE西日本	外野手
	大木　惇司	東邦ガス	外野手
R2年度卒	神田　将嗣	ジェイグループ	内野手
	小口　丞太郎	ENEOS	捕手
	髙垣　鋭次	東邦ガス	内野手
	宮木　紳道	九州三菱自動車	外野手
	吉高　壮	日本生命	投手

クラブチーム

卒業年度	氏名	所属	ポジション
H10年度卒	米田　和正	大和高田クラブ	副部長
H14年度卒	山本　貴紀	大和高田クラブ	コーチ
R元年度卒	有住　隆哉	YBC柏	外野手

2021 DRAFT

令和３年10月11日（月・祝）、プロ野球ドラフト会議 2021 において、令和元年度卒業の柴田大地選手が、東京ヤクルトスワローズ３位指名を受けました。背番号は「４１」で、最速156km のストレートが武器です。プロでの活躍を期待しております！

SHIBATA DAICHI
柴田 大地（投手） **41**

1997 年 11 月 7 日生まれ
日体大荏原高校 → 日本体育大学 → 日本通運

在学中の柴田投手

令和３年度卒業生進路

区分	ポジション	氏名	所属先	出身校
硬式	投手	北　拓海	伯和ビクトリーズ	智辯和歌山
	投手	筒井　恒匡	JFE西日本	松本工業
	投手	中津　秀太	高知ファイティングドッグス	京都外大西
	投手	鳥谷部　慎吾	神奈川フューチャードリームス	弘前東
	内野手	石井　幸大	JR東海	愛工大名電
	内野手	猪原　隆雅	ミキハウス	大冠
	内野手	水野　晋太朗	島津製作所	三重
	内野手	三野原　愛望	九州三菱自動車	東福岡
	外野手	堀口　遼馬	エイジェック	日大藤沢
	外野手	ワラス　開智	茨城日産	常磐大学

区分	ポジション	氏名	所属先	出身校
軟式	投手	伊藤　敦紀	菊水化学工業	健大高崎
	投手	早稲田　玲生	旭銅管工業株式会社	宇部鴻城
	内野手	市村　拓巳	株式会社イトーキ	横浜
	内野手	殿谷　小次郎	株式会社アイアイ	市立尼崎
	外野手	橋本　篤弥	アンリツ株式会社	敦賀気比

令和４年度 推薦入学者

スポーツ推薦（野球部分配枠）

No	守備	名前	高校名	投打	入試方法	OB関係
1	投手	関戸　康介	大阪桐蔭	右右	スポーツ推薦	○
2		安川　幹太	帝京	右右	スポーツ推薦	
3		大田　泉陽	明石商業	右右	スポーツ推薦	○
4		久保　陽太郎	明石商業	右右	スポーツ推薦	○
5		池田　史音	横浜商大	右右	スポーツ推薦	○
6		ワトリー ジャイヤーイシメール	京都外大西	右右	スポーツ推薦	
7		竹内　太一	高知商業	右右	スポーツ推薦	○
8	捕手	岩田　優真	立花学園	右右	スポーツ推薦	○
9		安田　和輝	日大三	右右	スポーツ推薦	
10	一塁手	延末　勧太	横浜	右右	スポーツ推薦	○
11		上田　琉久	東邦	右右	スポーツ推薦	
12		黒川　怜遠	星稜	左左	スポーツ推薦	
13	二塁手	宇佐美　佑典	県岐阜商	右右	スポーツ推薦	
14	三塁手	木原　涼太	桐蔭学園	右右	スポーツ推薦	○
15		武智　皓亮	創志学園	右右	スポーツ推薦	○
16	遊撃手	宮崎　智生	福井商業	右左	スポーツ推薦	○

スポーツ推薦（公募枠）

No	守備	名前	高校名	投打	成績	OB関係
1	捕手	田辺　広大	常総学院	右右	選抜ベスト16	○
2	左翼手	門馬　功	東海大相模	右右	選抜優勝	

総合選抜型入試（トップアスリート型）

No	守備	名前	高校名	投打	成績	OB関係
1	投手	伊藤　大稀	智弁和歌山	右右	選手権優勝	○
2		篠原　颯斗	池田	右右	トップアスリート指定	○
3		中嶋　太一	桐光学園	右右	トップアスリート指定	○
4		松田　隆之介	仙台育英	右右	選抜ベスト8	
5	捕手	木村　航大	仙台育英	右右	選抜ベスト8	
6	一塁手	島貫　丞	仙台育英	左左	選抜ベスト8	
7	二塁手	竹村　日向	智辯学園	右右	選手権準優勝	○
8	遊撃手	橋本　唯哉	東海大学菅生	右左	選抜ベスト8	
9	左翼手	野中　駿哉	高崎健康福祉大学高崎	右右	選抜ベスト16	○
10		岩田　一真	東海大学菅生	右右	選抜ベスト8	
11		杉浦　泰文	中京大学付属中京	右左	選抜ベスト4	
12	中堅手	森田　空	智辯学園	右右	選手権準優勝	
13		安達　大和	横浜	右左	トップアスリート指定	○